

平成 26 年度 決算 に 係 る

定 期 監 査 調 書

平 成 27 年 4 月

園芸試験場

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	1頁
	(2) 監査意見	1頁
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1頁
3	組織及び業務調べ	1頁
4	職員の定員、現員調べ	1頁
5	役付職員の調べ	2頁
6	主な事業に関する調べ	3頁
7	収入証紙取扱額調べ	6頁
8	収入事務処理状況調べ	6頁
	(1) 分担金及び負担金	6頁
	(2) 使用料	6頁
	(3) 手数料	6頁
	(4) 財産収入	6頁
	(5) 諸収入	7頁
	(6) 現金の取扱状況	7頁
9	収入未済額調べ	8頁
10	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	8頁
11	税外収入不納欠損額調べ	8頁
12	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	8頁
	(1) 負担金	8頁
	(2) 補助金	8頁
	(3) 交付金	8頁
	(4) 委託料	9頁
13	工事請負費調べ	9頁
14	財産に関する調べ	10頁
	(1) 公有財産	10頁
	(2) 金券類の受払状況	12頁
15	財産の貸付及び使用許可調べ	13頁
	(1) 土地及び建物	13頁
	(2) 物品	14頁
16	借受不動産明細調べ	14頁
17	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	15頁
	(1) 職員住宅	15頁
	(2) 職員駐車場	15頁
18	自動車(二輪を除く)の管理状況調べ	16頁
19	寄附物件の受納状況調べ	16頁
20	備品の処分状況調べ	17頁
21	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	18頁
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	18頁
	(2) 物品の照合	18頁
22	農業機械の管理状況	19頁
23	生産物(品)に関する調べ	21頁
24	試験研究調査事業別実施状況調べ	23頁
○	意見、要望等	47頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項 該当なし

(2) 監査意見

監査意見	処理状況等
<p>第3 定期監査重点事項の調査結果</p> <p>3(1) 使用できない物品の処分を検討を行っていないもの 使用できない物品は速やかに売却や棄却等処分方針を決定し、適切に処分の手続きを行うこと。</p> <p>3(2) 使用可能な物品のうち全く使用していないもの又は極めて利用率が低いもの 業務廃止等の事情変更により仕様の見込みがなくなった場合は、他用途への活用や処分などの処理方針を速やかに決定すること。</p>	<p>(人工気象室) 廃棄予定</p> <p>(蛋白質一次構造解析装置) 廃棄予定</p>

(3) 決算審査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘含む。)に対する処理状況 該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
園芸試験場	果樹研究室	果樹の育種及び栽培に関すること。
	野菜研究室	野菜の育種及び栽培に関すること。
	花き研究室	花きの育種及び栽培に関すること。
	環境研究室	果樹・野菜・花きの病害虫に関すること。
	生物学研究室	特産園芸作物を対象としたバイオテク手法による新品種育成に関すること。
	砂丘地農業研究センター	フキョウ・ブドウ・ナガイモの栽培技術改善に関すること。
	弓浜砂丘地分場	白ネギ等特産野菜の品種選定と育種及び栽培技術の改善に関すること。
	河原試験地	カキの品種選定と育種及び栽培技術の改善に関すること。
	日南試験地	中山間地の特産野菜や花きの品種選定と栽培技術の改善に関すること。

4 職員の定員、現員調べ

(平成27年4月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	27.4.1 現在	26.4.1 現在	27.4.1 現在	26.4.1 現在	27.4.1 現在	26.4.1 現在	27.4.1 現在	26.4.1 現在	
定員	0	0	34	34	11	12	45	46	
現員	0	0	(1) 35	(2) 34	11	12	46	46	産休中1名 病害虫防除所兼務5名
過不足(Δ)	0	0	1	0	0	0	1	0	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	1	1	0	0	52	49	53	50	農業技術員52名 一般事務 1名

5 役付職員の調べ

(平成27年4月1日現在)

職 名	氏 名	在職期間		備 考
		年	月	
場 長	村田 謙司	5 年	0 月	通算7年
次 長	笠原 宏人	0 年	0 月	
果樹研究室長	池田 隆政	2 年	0 月	
野菜研究室長	石原 俊幸	6 年	0 月	
花き研究室長	岸本 真幸	7 年	0 月	
環境研究室長	田中 篤	6 年	0 月	(兼)病害虫防除所 課長補佐
生物工学研究室長	森本 康史	1 年	0 月	
砂丘地農業研究センター所長	西村 光博	2 年	0 月	
弓浜砂丘地分場長	中村 博行	3 年	0 月	
河原試験地長	藤田 俊二	0 年	0 月	
日南試験地長	龜田 修二	7 年	0 月	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
有機・特別栽培を可能にする病害虫管理体系の構築 決算(見込)額 3,280千円 (財源内訳) 国庫支出金 1,640千円 一般財源 1,640千円	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア)目的 園芸作物の有機・特別栽培を進めるため、これまで検討を行っていない病害虫に対する農業代替技術を検討し、これまで明らかとなった技術を含めて、有機・特別栽培に対応した病害虫管理体系を組み立てる。</p> <p>(イ)事業の実施状況</p> <p>① ナシでは、暫定的に作成した特別栽培体系によって栽培を行い、病害虫の発生状況を調査した。また、特別栽培体系に導入可能な農業代替資材について検討した。</p> <p>② ネギでは、コンパニオンプランツとして白クローバー、大麦を利用した栽培を行い、病害虫・雑草の発生状況を調査した。また、特別栽培体系に導入可能な、赤色防虫ネット、微生物資材の効果について検討した。</p> <p>③ 初夏どりプロッコリーでは、2品種を用いて、無機銅剤と微生物資材を利用した栽培体系を行い、病害の発生状況を調査した。秋冬どりプロッコリーでは、コンパニオンプランツとして大麦を利用した有機栽培体系を行い、病害虫・雑草の発生状況を調査した。</p> <p>イ 平成26年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <p>① これまでの課題では、特定の作物・病害虫に対する化学農業代替技術を検討してきたが、本事業では、これまで明らかになった技術を体系化して有機・特別栽培体系を行い、それを改良することによって、実際に利用可能な体系を構築する。</p> <p>ウ 成果</p> <p>① ナシの特別栽培体系では、害虫による被害、黒星病の発生は慣行栽培と同程度であった。黒斑病と黒星病に効果があり、葉害が少ない無機銅剤が明らかになった。水和硫黄剤は、うどんこ病に対する効果が高かった。</p> <p>② ネギのコンパニオンプランツは、病害と雑草に対する効果が認められた。赤色防虫ネットによるネギアザミウマの密度抑制効果が認められた。</p> <p>③ 初夏どりプロッコリーでは、無機銅剤と微生物資材を利用した体系は、慣行栽培に比べ花蕾腐敗病の発生が同等～やや少ない発生であった。</p> <p>エ 課題</p> <p>① ナシの特別栽培体系では、うどんこ病の対策、水和硫黄剤の希釈倍率を変更した検討が必要である。</p> <p>② ネギの特別栽培体系では、ネギアザミウマ等の害虫対策として他のコンパニオンプランツの検討、病害対策として微生物資材の検討が必要である。</p> <p>③ 秋冬プロッコリーのコンパニオンプランツとして大麦を利用した体系は、大麦の播種量及び播種方法等の検討が必要である。</p>	

事業名	概	要
バイテックによるナガイモ及びラッキョウ新品種の育成 決算（見込）額 3,257千円 （財源内訳） 一般財源 3,257千円	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的 砂丘地農業の再生・振興を目的として、省力栽培に適した高品質なナガイモ新品種およびラッキョウ新品種を育成・実用化し、鳥取オリジナル品種による産地のブランド化を目指す。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>① ナガイモ 産地では付加価値の高い独自品種が求められている。そこで、形状、粘りに特徴があり、かつ栽培しやすいナガイモ新品種を育成する。事業の流れは以下のとおりである。 雑種の作出 → 切り芋萌芽性による選抜 → 形状による選抜 → 粘りによる選抜 → 弱毒ウイルス接種による収量性評価 → 産地適応性試験・種苗増殖 → 品種登録 → 普及</p> <p>② ラッキョウ 鳥取産の砂丘ラッキョウはカビの病気である乾腐病に非常に弱く、この病気を防ぐためには、多労とコストを要する。そこで、乾腐病に強い系統を育成する。 乾腐病に強いラッキョウを育成するための事業の流れは以下のとおりである。 人工交配 → 子房培養による雑種の作出 → 乾腐病に強い系統の選抜 → 高収量系統の選抜 → 産地適応性試験・種苗増殖 → 品種登録 → 普及</p> <p>イ 平成26年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <p>① ナガイモ これまでに選抜した42系統を砂丘畑で栽培試験を行った。また、弱毒ウイルスを接種した有望系統の種苗増殖を行った。</p> <p>② ラッキョウ 選抜した系統については、現地適応性試験を実施した。新たに耐病性系統を選抜するため1000系統以上の交雑種を作出した。これらについて乾腐病接種試験を行い、耐病性系統を選抜した。</p> <p>ウ 成果</p> <p>① ナガイモ ・栽培試験より、切り芋萌芽性があり、形状が短く形の揃いの良い、とろろの粘りの強い2系統を選抜した。</p> <p>② ラッキョウ ・乾腐病耐病性の野生種×在来栽培種の交配により、約3,300系統の交雑種を作出した。 ・これらの交雑種の中から、乾腐病に強く食味の良好な「R5」系統を選抜した（H26年度中に品種登録申請する予定）。 ・「R5」より収量性が優れる耐病性系統を、新たに4系統選抜した。</p> <p>エ 課題</p> <p>① ナガイモ ・選抜した系統の栽培試験（年次評価）を継続評価する。 ・弱毒ウイルスを接種した系統の収量性を評価する</p> <p>② ラッキョウ ・収量性が優れる新たな耐病性系統の現地適応性を調査する。 ・耐病性系統において、ウイルス感染により収量および品質が低下する問題を解決する。</p>	

事業名	概 要
<p>多チャンネル販売に対応した‘ねばりっ娘’等生産技術の確立</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況 (ア)目的 当試験場で育成された‘ねばりっ娘’について種々の販売仕向に対応した、高品質(芋肌がツツツしていない、芋肌の綺麗な芋)な芋を効率良く生産する技術の確立を行う。 また、近年ナガイモの表皮に発生する黒陥没症やネコブセンチュウの発生による減収となっているため、原因究明と対策技術の確立を行う。</p>
<p>決算見込額</p>	
<p>2,994千円</p>	
<p>(財源内訳)</p>	
<p>一般財源</p>	
<p>2,994千円</p>	
	<p>(イ)事業の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ‘ねばりっ娘’栽培における種芋の種類(子芋50g、頂芽30g)の違いが生育・収量に及ぼす影響を検討した。 ② ‘ねばりっ娘’栽培における種芋(頂芽)の保存方法の検討を行った。 ③ 黒陥没症の発生要因解析として、現地ほ場で、施肥量の違いが黒陥没症発生に及ぼす影響、場内試験で、かん水量と施肥量の違いが黒陥没症発生に及ぼす影響を検討した。 ④ 黒陥没症の発生低減対策として、品種別(‘ねばりっ娘’、普通ナガイモ)に生育初期の減肥が収量および芋品質に及ぼす影響を検討した。 ⑤ ネコブセンチュウの防除対策として、土壌消毒の処理時期と種芋の温湯処理方法について検討した。
	<p>イ 平成26年度実施に当たり改善等に取り組んだ点</p>
	<ol style="list-style-type: none"> ① 頂芽保存試験では、密封したビニル袋での保存は腐れの発生が問題となったため、腐れの発生が少なく適温に保てる方法として屋外の砂の中、屋内のパーミキュライト内での保存へ処理区を変更した。 ② 黒陥没症の発生要因解析試験では、前年の結果をふまえ、施肥量、かん水量ともに生育初期のみ変更することにより、影響を及ぼす時期の絞込みも行える試験とした。 ③ 黒陥没症の発生要因解析とは別に、発生低減対策試験に取り組んだ。
<p>ウ 成果</p>	
	<ol style="list-style-type: none"> ① 種芋の種類を検討した結果、出芽は子芋の方が頂芽より早く、初期生育は子芋のほうが優るが、最終的な収量は種芋の種類の違いによる差異はなかった。 ② 頂芽の保存方法として、植え付けまで土中保存またはパーミキュライト内保存が成行保存(慣行)と比較し減耗率を低く保つことができ、収量が確保できる方法と考えられた。 ③ 現地ほ場では、黒陥没症は4～6月(生育初期)の増肥によつての発生が多く見られる傾向だった。場内試験においては、黒陥没症は、施肥量が慣行3倍処理、かん水処理によつて発生が増加した。このことから、黒陥没症の発生要因として、施肥量とかん水量の両方に要因があるものと考えられた。 ④ ‘ねばりっ娘’、普通ナガイモともに4～6月(生育初期)の施肥の半減によつて、収量は減少する傾向が見られた。黒陥没症の発生については、試験を行ったほ場では発生が少なかったため減肥による影響は判然としなかった。 ⑤ 3月下旬の土壌消毒は、土壌中のガス濃度が高く推移し、ネコブセンチュウによる被害が全く認められず、高い防除効果が認められた。 47℃90分間の種芋温湯処理は、ネコブセンチュウによる被害が全く認められず、収穫物への悪影響も認められなかった。
<p>エ 課題</p>	
	<ol style="list-style-type: none"> ① 頂芽の調整時期の違いによる保存方法の検討が必要である。 ② 黒陥没症の発生要因の継続的な調査と発生時期の解明が必要である。 ③ 黒陥没症の発生低減対策技術の確立が必要である。 ④ ‘ねばりっ娘’頂芽に対する温湯処理方法の検討が必要である。

7 収入証紙取扱額調べ 該当なし

8 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料

(平成26年12月31日現在)

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
行政財産 使用料	行政財産 使用料	電柱敷地等	9	90,114	90,114	0	0	鳥取県行政財 産使用料条例	
		職員駐車場	53	53,000	52,000	0	1,000	"	4~12月分 H27.1.5収入 済1,000円
	計(節)	62	143,114	142,114	0	1,000			
目	計		62	143,114	142,114	0	1,000		
合	計		62	143,114	142,114	0	1,000		

(3) 手数料 該当なし

(4) 財産収入

(平成26年12月31日現在)

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
生産物売払 収入	生産物売払 収入		145	11,348,430	11,153,509	0	194,921	農林水産関係 試験研究機関 等における生 産品事務取扱 要領	H27.1.5収入 済194,921円
		計(節)	145	11,348,430	11,153,509	0	194,921		
目	計		145	11,348,430	11,153,509	0	194,921		
合	計		145	11,348,430	11,153,509	0	194,921		

(5) 諸収入

(平成26年12月31日現在)

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
農業・食品産業機構受託事業収入		農業・食品産業機構受託事業収入	3	1,071,000	1,071,000	0	0		
		計(節)	3	1,071,000	1,071,000	0	0		
雑入	雑入	預金利息	6	625	625	0	0		
		過年度分精算金等	1	68,503	68,503	0	0		
		自動販売機電気代、手数料	5	58,838	58,838	0	0		
		講師謝金	2	67,884	67,884	0	0		
	計(節)	14	195,850	195,850	0	0			
目計			17	1,266,850	1,266,850	0	0		
合計			17	1,266,850	1,266,850	0	0		

(6) 現金の取扱状況

ア 現金取扱状況

(平成26年12月31日現在)

(単位:円)

収入科目(節)	収入済額	備 考
生産物売払収入	812,100	生産品販売代金
合 計	812,100(1,002件)	

イ つり銭の状況

(平成26年12月31日現在)

つり銭の有無	無	つり銭の額(円)	
--------	---	----------	--

9 税外収入未済額調べ

該当なし

10 未収金回収促進のための取り組み状況調べ

該当なし

11 収入不納欠損額調べ

該当なし

12 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(1) 負担金

(平成26年12月31日現在)
(単位:円)

予算科目(目)	予算令連額	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月日	支出金額	支出の届出法令名等 (規約、要領等を含む)	備考
新規以外のもの						1,110,593		
目計						1,110,593		
合計						1,110,593		

(2) 補助金

該当なし

(3) 交付金

該当なし

(4) 委託料

予算科目 (目)	債権 品目 の別	委託料の名称	委託契約の相手方	予定価格	契約時期		人 年 月 日	支払の状況		備考
					契約 開始	契約 終了		支払 区分	支払 月日	
	車庫	鳥取県東部建設事務所 建築課	鳥取市鹿野区安曇1-1-2 山崎製菓(株)	1,581,000 (鳥取県) 0424,377 (鳥取県) 0424,377 0428,411 1,103,840	0424,377 0428,411	H24.3.15 (先)	H24.3.15 H28.3.1外	精	H28.3.16外	H24~H28年度 年度別 予算 380,000円
	車庫	鳥取県建設部建設課 北地方建設課建築課	松江府松江市中野 芝居製菓(株)	793,000 740,850 0407,747,936	0424,378 0427,931 同上	H24.4.1 (先)	H24.3.23 H28.3.1外	精	H24.3.23外	H24~H28年度 年度別 予算 246,960円
	車庫	鳥取県東部建設事務所 建設部建築課	鳥取市青葉区1-1-2 山崎製菓(株)	549,000 (鳥取県) 0428,411 343,440	0424,378 0424,411 同上	H24.3.22 (先)	H24.3.22 H28.3.1外	精	H24.3.22外	H24~H28年度 年度別 予算 113,400円
	車庫	マツキウ建設株式会社	「個人」	371,844 () 371,844	0428,419 0427,931	H26.4.1 (先)	H26.4.1 H28.3.1外	精	H26.4.1外	
	車庫	ナガノ建設株式会社	「個人」	212,893 () 212,893	0428,515 0427,931	H28.3.15 (先)	H28.3.15 H28.3.1外	精	H28.3.15外	
	車庫	鳥取県建設部建設課	松江府東出雲郡大浜町 2728-22(株)ユニ ラン	207,860 () 207,860	0428,412 0427,931	H28.4.9 (先)	H28.4.1 H28.3.1外	精	H28.4.9外	
	車庫	鳥取県建設部建設課	青森県田子町 有茂堂 辰巳園	327,888 () 327,888	028,10,19 013,200	H28.10.19 (先)	H28.10.9 H28.10.27	精	H28.10.27	
	車庫	クリューベンチ菓子店 総務課	鳥取市鹿野区291-13 鳥取科学館(株)	412,900 () 412,900	0428,10,31 039,890	H28.10.31 (先)	H28.10.24 H28.11.28	精	H28.11.28	
	車庫	鳥取市立鳥取第三 小学校	鳥取市鳥取区鳥取三 丁目(鳥取市)エフ ス(株)	234,890 () 234,890	0428,7,15 029,890	H28.7.15 (先)	H28.7.11 H28.11.28	精	H28.7.11	
	車庫	鳥取市建設部 建築課	鳥取市二瀬町一丁目 271(社)鳥取県産 産物協会	270,000 () 270,000	0428,7,11 028,1,1,17	H28.7.11 (先)	H28.7.10 H28.8.29	精	H28.8.29	
	車庫	鳥取県建設部建設課 建築課	鳥取市青葉区川島1-1 株式会社クエー	1,937,456 () 1,937,456	0428,6,4 0428,6,3 0428,10,29	H28.6.4 (先)	H28.5.30 H28.10.17	精	H28.5.30	
予算総計20 万円のうちの 万円の計										
合計										

1.4 財産に関する調べ

(1)公有財産

ア 土地

(平成26年12月31日現在)

行政・普通財産の区分	施設又は施設の名称	所在地	前年度末		増減別	本年度変動状況			備考		
			面積(m ²)	価額(円)		面積(m ²)	価額(円)	増減理由		差引	
										面積(m ²)	価額(円)
行政財産	(本場)	(北栄町由良留字上ノノソノ2048外)	204,353.91		増加			H			
	敷地・畑・道路				減少			H			
	(砂丘地農業研究センター)	(北栄町田井字沖浜527外)	9,881.00		増加			H			
	敷地・道路				減少		9,881.00	H			
普通財産	(倉吉正場)	(倉吉市大谷茶屋イザ原983外)	34,465.72		増加			H			
	敷地・畑・道路				減少		34,465.72	H			
	(馬奈砂丘地分場)	(境港市大寺中海干拓地15外)	29,018.52		増加			H			
	畑・草地				減少		29,018.52	H			
小計	(河原試験地)	(鳥取市河原町大字佐貫字本橋527)	1,545.11		増加			H			
	敷地・道路				減少		1,545.11	H			
			279,264.26						279,264.26		
普通財産	(倉吉正場)	(倉吉市大谷茶屋イザ原883-39外)	3,001.32		増加			H			
	敷地・畑・道路				減少		3,001.32	H			
小計			3,001.32						3,001.32		
合計			282,265.59						282,265.59		

イ 遊 物

(平成26年12月31日現在)

行政・普通 財産の区 分	施設又は施設の名称	所 在 地	前年度末		本年度異動状況				差引		備考	
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月日		面積(m ²)
行政財産	(本場)	(北栄町由良西)	5,469.84		増加	H					5,469.84	
	機掃格納庫外				減少	H						
行政財産	(西園ほ場)	(北栄町西園)	252.00		増加	H					252.00	
	管理器材庫外				減少	H						
本場計			5,721.84								5,721.84	
行政財産	(倉吉ほ場)	(倉吉市大谷赤屋)	2,078.49		増加	H					2,078.49	
	本館外				減少	H						
行政財産	(月浜砂丘地分場)	(環瀬市巾着干拓地)	849.47		増加	H					849.47	
	本館外				減少	H						
行政財産	(河原試験地)	鳥取市河原町佐貫	413.37		増加	H					413.37	
	本館外				減少	H						
行政財産	(砂丘地農業研究センター)	(北栄町田井)	436.79		増加	H					436.79	
	本館外				減少	H						
行政財産	(日南試験地)	(日南町阿蘇緑)	404.12		増加	H					404.12	
	本館外				減少	H						
合計			9,904.08								9,904.08	

ウ 山林	該当なし
エ 不動産売却等	該当なし
オ 財産の交換	該当なし
カ 動産(船舶、浮標、浮桟橋、浮ドック、航空機)	該当なし
キ 物件	該当なし
ク 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案権等)	該当なし
ケ 有価証券	該当なし
コ 出資による権利	該当なし

(2) 金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

(平成26年12月31日現在)

種 別	前年度末	本年度中		差 引	備 考
		購入額	使用額		
郵便切手及び郵便はがき	円 182,385	円 76,279	円 105,455	円 153,209	
収入印紙	2,800	0	0	2,800	
合 計	185,185	76,279	105,455	156,009	

イ タクシーチケットの受払状況 該当なし

15 財産の貸付及び使用許可額へ
(1) 土地及び建物
ア 土地

行政・普通財産の区分	貸付 (使用許可) 目 的	所在地	数量又は面積	貸付 (使用許可) 年月日	当初貸付 (使用許可) 年月日	貸付 (使用許可) 期 間	貸付(原簿)率(円)		貸付(使用許可)先 所 名		備 考
							単価	本年までの 貸付(使用)料	氏 名	住 居	
行政財産	電力供給施設	木場 北岸町益島市	電柱 2本 支柱 2本 支脚 7条	H21.1.13	S.53.10.16	H26.4.1 H31.3.31	19,090	19,090	香南市越前町245-6 中国電力(株)	山田 耕司	
	"	"	電柱 6本 支柱 1本 支脚 2条	H25.3.1	S.63以前	H28.4.1	15,570	15,570	香南市越前町245-6 中国電力(株)	山田 耕司	
	"	"	支脚 2条	H24.4.1	H14.4.18	H24.4.1	3,460	3,460	香南市越前町245-6 中国電力(株)	山田 耕司	
	電気通信用施設	"	電柱 6本 支脚 6条	H24.4.1	H.9.4.1	H24.4.1 H28.3.31	20,760	20,760	高取市通所町2-288 日本電信電話(株)	山田 耕司	
	茶室用	"	自製既乾燥 1合	H24.4.1	H24.4.1	H24.4.1	384	384	高取市錦ヶ丘2丁目687-14 (株)戸信 株式会社 戸信 盛久		
	電力供給施設	西原ほ峰 北岸町益島市	支脚 1条	H22.4.1	H.17.6.15	H22.4.1 H27.3.31	1,730	1,730	香南市越前町245-6 中国電力(株)	山田 耕司	
	"	砂丘地農業研究センター 北岸町益島市	電柱 1本 電柱 2本	H25.3.1	H.20.3.31	H28.4.1	4,960	4,960	香南市越前町245-6 中国電力(株)	山田 耕司	
	"	香南市水谷茶屋	電柱 6本 支柱 1本 支脚 3条	H22.4.1	H.3.1.9	H24.4.1 H27.3.31	17,300	17,300	香南市越前町245-6 中国電力(株)	山田 耕司	
	電力供給施設	馬屎砂土地分庫 香南市中津子拓地	電柱 3条 支脚 1条	H24.4.1	H.14.4.18	H24.4.1	6,920	6,920	香南市加茂町2丁目51番地 中国電力(株)	山田 耕司	
	計						90,114	90,114	香南市水谷茶屋 木子言葉茶屋 加納 利尚		
普通財産											
計											
合計											

イ 農 物 課 当 分

該当なし

(2) 物品

16 借受不動産明細調べ

区分	種別(使用目的)	借受目的	所在地	敷又面積㎡	量はは種㎡	契約書の有無	借受期間	契約の状況		借受先		備考
								借料(円)	本年度の借料	住 氏 名	所 名	
(河原試験地)												
土地	山林・畑	坪増附地	鳥取市河原町佐高字丸瀬574	7,600.00		有	S30.12.10 ~	月額・年額 無料	無料		鳥取市	
土地	畑	坪増附地	鳥取市河原町佐高字岩間1827-1外	12,668.39		有	H.18.3.22 ~ H.26.3.21	月額・年額 無料	無料		鳥取市	
土地	田	坪増附地	鳥取市河原町佐高字岩間122-2外	3,305.00		有	H.26.4.1 ~ H.27.3.31	丹額・年額 26,440	26,440		[借入]	
土地	畑	河原試験地 試験地準地 附地	鳥取市河原町佐高字園橋632	451.90		有	H.17.5.1 ~ H.32.3.31	丹額・年額 21,691	21,691		[借入]	
(本場)												
土地	山林	排水施設用 地	東伯郡北条町由良番字上/F92040-3外	146.00		有	H.20.4.1 ~ H.27.3.31	丹額・年額 3,285	3,285		[借入]	
(日南試験地)												
土地	畑・田	日南試験地 附地	日野郡日南町阿部番字ヒヤク田1201外	17,157.61		有	S.57.4.1 ~ H.29.3.31	月額・年額 無料	無料		日南町	
合計				41,256.90								51,416

17 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ

(1)職員住宅 該当なし

(2)職員駐車場

ア 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積(m ²)	貸付(使用)料(月額)(円)
行政財産	本場 (東伯郡北栄町由良宿2048)	12.5	1,000
	生物工学研究室 (倉吉市大谷茶屋883-85)	12.5	1,000
	砂丘地農業研究センター (東伯郡北栄町田井529)	12.5	1,000
	弓浜砂丘地分場 (境港市中海干拓地27)	12.5	1,000
	河原試験地 (鳥取市河原町佐貫527)	12.5	1,000
	日南試験地 (日野郡日南町阿黒線1203-1)	12.5	1,000
普通財産			

イ 異動状況

(行政財産)

月別	前月末	当月減		当月増		当月末		調定額	収入済額	収入未済額
		うち減免		うち減免		うち減免				
	人	人	人	人	人	人	人	円		
4月	98	18	15	19	17	99	94	5,000	5000	0
5月	99	2	2	1	0	98	92	6,000	6000	0
6月	98			2	2	100	94	6,000	6000	0
7月	100			3	3	103	97	6,000	6000	0
8月	103					103	97	6,000	6000	0
9月	103					103	97	6,000	6000	0
10月	103					103	97	6,000	6000	0
11月	103					103	97	6,000	6000	0
12月	103					103	97	6,000	5000	1,000
1月										
2月										
3月										
合計								53,000	52,000	1,000

18 自動車(二輪を除く)の管理状況調べ

(平成26年12月31日現在)

車種	年式	登録番号	取得年月日	総走行 キロ数	本年度		備考
					車検年月日	修理費等	
普通貨物 (本場) ヒノ	3	鳥取11 せ 31-61	H9.7.31	113,709 km	平成26年7月31日	121,407 円	
小型貨物 (砂丘地農業研究センター) いすゞ	10	鳥取45 そ 57-47	H10.9.24	58,388	平成26年9月22日	198,471	
合計		2台				319,878	

19 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

20 備品の処分状況調べ

(平成26年12月31日現在)

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	耐用 年数	取得価格 円	不用決定 年月日	不用とする 理由	処 分				備 考
							売払業 卸の別	売払方法・ 業卸理由	処分 年月日	売払額・ 処分費用 円	
パソコン	17	H14.3.31	6	3,620,082	H26.6.27	基本OSサ ポート終了	棄却	使用不可 能なため	H26.7.24		産廃契約で処理
テレビデオ	1	H6.3.31	5	283,391	H26.6.23	老朽化のた め修理不能	棄却	使用不可 能なため	H6.7.11	2,916	
冷温水ボトル	1	H9.3.3	5	74,160	H26.6.23	老朽化のた め修理不能	棄却	使用不可 能なため	H6.7.11		産廃契約で処理
冷蔵庫	1	H6.5.30	5	83,636	H26.7.6	老朽化のた め修理不能	棄却	使用不可 能なため	H26.7.14	4,966	
PHメーター	1	S61.7.10	6	143,000	H26.7.8	老朽化のた め修理不能	棄却	使用不可 能なため	H26.7.14		産廃契約で処理
デジタル糖度計	1	H13.5.11	5	84,000	H26.8.20	老朽化のた め修理不能	棄却	使用不可 能なため	H26.8.22		"
デジタル糖度計	1	H15.5.2	5	80,325	H26.8.20	老朽化のた め修理不能	棄却	使用不可 能なため	H26.8.22		"
トラクター	1	H3.6.29	8	2,647,100	H26.10.25	老朽化のた め使用不能	売却予 定	オーク ション			
合 計	24			7,015,694						7,884	

21 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(平成26年12月31日現在)

現金、有価証券 又は物品名	数量	金額	出納員又は 使用者職氏名	亡失、損傷年月 日、時	同左場所	同左概要	報告 年月日	会計高の 審査結果
簡易分光色差計	1	円 800,100 (81,000)	果樹研究室 研究員 田邊 未未	平成26年8月13日 午後3時00分頃	本場 恒温器室	分光色差計を使用する際は、正確な測定データを取得するために光が入らないようにする必要があります。狭い空間で作業をしていたところ、ACアダプターのコードにつきまつき、機械が落下し破損した。	H26.10.3	無
公用車	1	「リース車両」 (7,900)	河原試験地 非常勤職員 池本 悟	平成26年11月13日 午後2時頃	河原試験地 水田ほ場	水田ほ場への進入道路が急勾配で、県道との界に段差があり公用車のフロントバンパー下部をこの段差にこすり損傷した。	H26.11.18	無
トラクター	1	2,280,285 (39,900)	弓浜砂丘地分場 農業技手 藤辺 寛	平成26年11月19日 午後4時50分頃	弓浜砂丘地 分場農具倉内	白ネギの残滓等を処分するため、トラクターを農具倉から急いで出そうとしたところ、左ドアが完全に閉まっておらず、農具倉の引き戸と接触し、ガラスが破損した。	H26.11.21	無
トラクター	1	2,280,285 (47,108)	弓浜砂丘地分場 農業技手 藤辺 寛	平成26年12月26日 午前10時頃	弓浜砂丘地 分場残滓置場	トラクターで耕耘作業を行う前、安全性を考慮し、フロントローダ（前方に装着してあるシヨベル）を外していたところ、手前のバーがフロントガラスに接触し破損した。	H26.12.26	-
合計	4	176,908						

(2) 物品の照会

照会年月日	現物が確認できなかった物品	現物が確認できなかった物品名	個数
平成26年12月1日	・有 ①無		

22 農業機械の管理状況

(平成26年12月31日現在)

品名 (本機)	形及 式 種 別	取 得 年 月 日	用 途	稼 働 日 数	費 用		修理費等 円	左の主な内容	
					燃 料 費 金 額 円	金 額 円		円	備考
動力運搬車	ヤンマー FG-182SD	H8.4.20	生産物運搬	25	ガソリン	38.5	5,840	0	
	チクスイ EG5-072	H28.6.16	#	55	ガソリン	71.5	11,440	0	
#	カワシマ ED1260	H4.6.25	#	0	軽油	0	0	0	
#	チクスイ ELS-680D	H8.5.9	#	32	ガソリン	15.5	2,480	0	
#	チクスイキヤニコム J-80	H28.8.4	#	47	ガソリン	28	4,160	0	
#	チクスイ J-80-DP	H12.5.9	#	68	ガソリン	116	18,560	0	
#	カワシマ RF-4WD-DV	H15.6.18	#	53	ガソリン	87.5	14,000	16,394	走行用Vベルト交換 16,394
#	カワシマ RF-4WD-D	H15.8.20	#	-	ガソリン	-	-	-	
#	カワシマ ACK1820D-4WDSE	H18.6.14	#	99	ガソリン	32.5	5,200	5,122	バッテリー交換 5,122
#	カワシマ AC18-4WD	H24.8.9	#	124	ガソリン	84.5	13,520	34,850	デフォルト交換、ブレーキレバー前 12,106 バッテリー充電不良修理 22,744
トラクター	シマダ ロータリアランス	S62.7.3	圃場管理	25	軽油	138.6	19,958	4,200	タイヤチェーン交換 4,200
#	ヤンマー F180	H4.8.20	#	8	軽油	9	1,288	0	
#	ヤンマー AP-30ML	H8.1.21	#	41	軽油	207.9	29,338	89,305	タイロッドブーツ緩交換 36,089 羽根歯保護回路修理 54,216
#	イセキ TB020F-V	H12.3.15	#	37	軽油	327.6	47,174	91,584	パンク修理 4,536 駆動タイヤ交換 87,048
#	ヤンマー 18PS AF218VPKS4M	H14.6.10	#	60	軽油	240	34,560	37,714	ロータリー爪交換 37,714
#	ヤンマー 雑床 RS-300FKVU	H14.8.10	#	51	軽油	67.2	9,877	38,720	セルモーター修理 38,720
耕耘機	サトウ KG180	SS18.2.23	耕転・畝立	0	軽油	0	0	0	
スピードブレーキ	崎信 3S-FSC1061	H25.6.11	#	18	軽油	303.8	43,747	0	
#	ヤンマー YAS1000DX	H7.7.27	#	31	軽油	258.7	37,397	129,785	水漏れ修理 94,414 機件機修理 35,381
#	崎信 3S-FSC615	H15.4.21	#	18	軽油	235.9	33,970	0	
耕耘機	サトウ KG180	SS18.2.23	耕転・畝立	0	軽油	0	0	0	
長いも掘取機	クボタ HS-1502-6型	H9.9.18	掘り取り	8	ガソリン	0	0	0	
長いも深耕機	ヤンマー NFADB-1L	H16.2.26	深 耕	0	軽油	0	0	0	
管理機	クボタ(土壌測定機付) TI-55 NO.1	H4.9.4	#	4	ガソリン	2	320	0	
#	クボタ TI-55 NO2(旧)	H4.9.11	耕転・畝立 マルチ・播種	18	ガソリン	18	2,680	0	
#	クボタ TA800-SCJV	H23.8.26	耕転・畝立	23	ガソリン	36	5,760	12,128	キギローター駆動交換 8,547 ヘッド締め付けボルト交換 2,441 スパーキング交換 540
#	イセキ(高減速機付) KP7F6	H14.5.13	耕転・畝立	7	ガソリン	5	800	0	
草刈機	シャクボ-列-ET SM615B	H3.5.24	草 刈	8	ガソリン	0	0	0	
草刈りエンジン	クボタ R150-TK	H17.7.29	草刈機取	5	ガソリン	6	960	0	
草刈機	中央工業 AM61A	H8.4.18	#	3	ガソリン	8	960	0	
高所作業車	共立 KCG-3500H/T	H5.5.17	樹林地刈込	7	ガソリン	21	3,360	0	
#	共立 KCG-3500H	H17.8.9	#	13	ガソリン	42	6,720	0	
乗用草刈機	オーレック RM90V	H9.8.14	#	20	ガソリン	110	17,600	0	
#	アグリップ RM-80JD	H11.2.16	#	14	ガソリン	94	15,040	0	
#	アテックス菊屋王 R-950HA	H10.7.4	#	30	ガソリン	215	34,400	0	
#	アグイ MB1021 X1	H23.8.5	#	27	ガソリン	240	38,400	0	
芝刈機	パロネス LM81	H15.7.31	芝 刈	6	ガソリン	9	1,449	83,700	リールモーター巻置 83,700
芝用スライパー	カワシマ LS805D	H14.4.25	#	9	ガソリン	14.5	2,320	27,432	足スライパーブラシ交換 27,432
ワド	ワド			0	ガソリン	0	0	0	
除雪機	SS138UH	H15.12.18	除 雪	0	ガソリン	0	0	0	

品名	形及規 式 格	取 得 年 月 日	用 途	稼 働 日 数	燃 料		修理費等 円	左の主な内容 円	備考
					消 費 量 g	金 額 円			
(砂浜地農事研究センター)									
トラクター	ヤンマー EF328XUQKCS	H15.9.29	園地管理	29	軽油	81	11,664	0	
動力運搬車	チクスイ ELL801	H16.6.6	運搬	35	ガソリン	10	1,600	0	
"	ヤンマー CG-146D	H6.4.20	"	31	ガソリン	8	1,280	0	
耕転機	ヤンマー YA-70CA	H7.8.31	耕転	1	軽油	2	286	0	
動力噴霧器	ATC-493M 共立	H20.12.3	薬散	31	ガソリン	24	3,840	0	
テッパシユレツダ	ア-1100C	H17.8.4	枝葉剪断	9	ガソリン	10	1,600	0	
管理機	クボタクラ-ラ-式 IAR00-SCJV	H19.9.26	根切り 掘上	6	ガソリン	6	960	0	
(巧浜砂丘地分場)									
トラクター	クボタ K124	H24.9.19	耕転・畝立 除雪・運搬器具	79	軽油	450	84,800	0	
トラクター	クボタ GL32	H3.8.29	耕転・畝立 除雪	0	軽油	0	0	0	
"	クボタ GB16	H8.10.15	耕転・畝立	21	軽油	25	3,200	10,314	10,314
"	クボタ ZL2402	S57.8.13	残雪処理	2	軽油	20	2,880	0	H25廃止
ネギ定植機	タの6 QP2100	H8.10.15	定植	0	ガソリン	0	0	0	
耕転機	クボタ TG800	H10.3.30	耕転	1	ガソリン	0	0	0	
管理機	イセキ KC750F	S59.5.20	耕転・畝立 土壌消毒	5	ガソリン	0	0	0	
"	エ-スローター AR63H	H4.2.10	土寄せ	0	ガソリン	0	0	0	H25廃止
ネギ管理機	アグリッパ NR50SN	H19.6.1	土寄せ	52	ガソリン	43	6,880	48,492	清拭用SET交換 10,800 爪軸交換 29,029 オイルシール交換 11,684
"	クボタ FTN7-Y	H26.11.28	土寄せ	2	ガソリン	2	320	0	新規
土壌消毒機	有光 SD-6V	H25.12.16	土壌消毒	7	ガソリン	5	800	0	新規
動力運搬車	ヤンマー クロ-ラ- CG162	H19.6.6	運搬・薬散	55	ガソリン	38	6,080	0	
動力運搬車	チクスイ ELL80IMPW	H14.5.20	生産物運搬・ 資材運搬	106	ガソリン	55	8,800	0	
スピードスプレヤー	丸山 SSA-a601	H10.6.28	薬散	12	軽油	138	19,872	0	
動力草刈機	スター ハマナイフ HFC7050	H6.9.8	草刈	0	ガソリン	0	0	0	
兼用草刈機	アグリッパ RMS5D	H12.5.2	"	11	ガソリン	33	5,280	0	
"	アグリッパ RM85	H15.5.7	"	22	ガソリン	95	15,200	0	
"	フジイ MF915X	H24.5.18	"	20	ガソリン	70	11,200	0	
(生体工学研究室)									
スピードスプレヤー	昭信 SS-4WD6-T	H1.4.27	薬散	16	軽油	43	6,192	0	
動力運搬車	カワシマ RF4WD-DV	H15.8.20	資材運搬	70	ガソリン	93	14,880	0	
トラクター	ヤンマー EF220VJKSSME	H19.8.24	耕転・畝立 除雪	9	軽油	109	15,696	0	
除雪機	ブド- SMX1392-N	H25.12.13	除雪	2	ガソリン	12	1,920	0	
(日南試験地)									
トラクター	クボタ A-13	H4.8.7	耕転・畝立 薬散	3	軽油	20	2,880	0	
"	ヤンマー 21PS AF322	H14.5.31	"	11	軽油	155	22,320	57,250	タイヤ交換 57,750
管理機	クボタ T1-55SKRV1	H3.5.15	耕転・畝立	5	ガソリン	6	960	0	
"	クボタ T-80	H7.9.21	"	7	ガソリン	12	1,920	0	
"	クボタ FTN-7Y	H22.7.6	清きり・土寄せ	16	ガソリン	29	4,640	20,180	爪交換 20,180
動力三輪車	カワシマ SC1520DEV-SE	H6.7.4	運搬	28	ガソリン	50	8,000	0	
除雪機	KSR8	H3.12.9	除雪	1	ガソリン	2	320	0	
計					軽油	2,832.7	407,909	705,690	

生産部門	品名種類	作付面積 ㎡	生産計画 数量 ㎏	前年度か らの繰越 数量 ㎏	生産数量		場内		県外		県外数量		差引 換 算	備考		
					購入	計 ㎏	使用 ㎏	数量 ㎏	金額 円	数量 ㎏	金額 円	数量 ㎏			金額 円	
																生産 数量 ㎏
野菜	二十世紀	10,800	22,500.0		11,822.2	11,322.2	999.1	10,218.2	2,013,890	54.0	950.9	2,013,890	0.0	ハウス含む		
	専売	200	300.0		510.7	510.7	82.2	349.0	109,870	0.0	79.5	109,870	0.0			
	あまづき	100	200.0		213.2	213.2	0.0	186.0	72,150	0.0	27.2	72,150	0.0			
	なむらひめ	2,000	4,000.0		2,182.5	2,182.5	1,078.3	992.0	23,700	36.0	106.2	23,700	0.0			
	なま秋	5,000	10,000.0		5,583.8	5,583.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	新巻貝	2,000	4,000.0		2,161.1	2,161.1	65.1	146.0	0.0	0.0	0.0	151.0	0.0			
	秋巻貝	4,000	8,000.0		4,290.9	4,290.9	1,373.5	2,689.0	66,150	36.0	102.4	66,150	0.0			
	秋巻貝	250	500.0		861.7	861.7	687.7	147.0	36,750	0.0	47.0	36,750	0.0			
	重巻かか	3,000	6,000.0		1,673.1	1,673.1	390.0	717.0	250,950	0.0	572.1	250,950	0.0			
	専売	1,300	1,000.0		341.2	341.2	81.1	188.2	4,000	0.0	71.9	286.1	4,000.0	0.0		
野菜	その他ナシ	4,500	9,000.0		2,044.4	2,044.4	423.3	1,366.0	285,280	0.0	255.1	285,280	0.0	なつしずく、晴馬、黒秋、他		
	ウメ	1,500	750.0		30.5	30.5	0.0	28.0	8,400	0.0	2.5	30.5	8,400.0	0.0		
	かみきつ棚	1,000	750.0		141.7	141.7	0.0	120.8	8,600	0.0	20.9	141.7	8,600.0	0.0		
	西条	1,500	900.0		128.2	128.2	0.0	108.0	17,056	0.0	11.2	128.2	17,056.0	0.0	置有、黒田厚生、太秋、新秋	
	カキ	500	500.0		190.0	190.0	0.0	180.0	45,000	0.0	21.0	190.0	45,000.0	0.0		
	小計	31,500.0	310,750.0	0.0	24,813.2	24,813.2	5,320.1	17,405.2	2,941,736.0	126.0	0.0	1,981.9	19,453.1	2,941,736.0	0.0	
	スイカ	4,610	23,500.0		16,433.8	16,433.8	0.0	9,753.0	1,016,930	5.5	6,735.1	16,433.8	1,016,930	0.0	場内使用分販売(5915kg)	
	中央スト	350	900.0		629.0	629.0	0.0	421.2	175,296	0.0	207.8	629.0	175,296	0.0		
	アスハ	350	700.0		1,391.4	1,391.4	40.0	977.5	585,744	0.0	373.9	1,391.4	585,744	0.0		
	イチゴ	200	240.0		374.2	374.2	0.0	275.1	316,819	0.0	99.1	374.2	316,819	0.0		
アボカド	600	1,000.0		746.0	746.0	69.2	317.2	177,050	0.0	369.6	696.6	177,050	0.0			
ブロッコリー	4,800	3,200.0		1,714.8	1,714.8	132.9	1,092.0	187,704	0.0	489.9	1,851.9	187,704	0.0			
ホウレンソウ	620	310.0		221.3	221.3	0.0	186.8	71,564	0.0	34.5	221.3	71,564	0.0			
甘藷とうもろこし	120	600.0		479.7	479.7	0.0	284.0	137,506	0.0	215.7	479.7	137,506	0.0			
小計	11,850.0	301,150.0	0.0	21,990.0	21,990.0	232.1	13,236.8	2,046,613	5.5	0.0	8,465.6	21,757.9	2,046,613.0	0.0		
スナップ	200	2,500.0		3,770.0	3,770.0	1,220.0	186.0	0.0	1,885.0	0.0	2,950.0	0.0	0.0	県外・本		
トルコキキョウ	200	2,000.0		1,475.0	1,475.0	522.0	249.0	16,600	0.0	704.0	653.0	16,600	0.0	県外・本		
ユリ	400	3,500.0		5,900.0	5,900.0	2,510.0	153.0	10,200	100.0	2,337.0	3,193.0	10,200	0.0	県外・本		
花萼蓮	100	1,500.0		910.0	910.0	210.0	120.0	3,000	420.0	180.0	700.0	3,000	0.0	県外・本		
小計	900.0	9,500.0	0.0	11,955.0	11,955.0	5,962.0	707.0	29,800	620.0	0.0	5,666.0	6,693.0	29,800	0.0		
スイカ	2,500	1,800.0		1,382.0	1,382.0	0.0	1,042.0	134,190	0.0	340.0	1,382.0	134,190	0.0			
スイートコーン	200	100.0		63.6	63.6	0.0	57.0	11,400	0.0	6.6	63.6	11,400	0.0			
ミニトマト	500	1,500.0		295.7	295.7	0.0	255.0	136,132	0.0	40.7	295.7	136,132	0.0			
ナガイモ	1,200	3,000.0	800.0	2,733.5	3,533.5	687.0	1,638.0	449,172	0.0	108.5	1,796.5	449,172	1,070.0			
ねばりごぼう	900	900.0		785.5	785.5	0.0	783.0	1,800	0.0	0.0	3.5	785.5	1,800	0.0		
ナス	3,450	50.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
トマト	100	250.0		7.8	7.8	0.0	5.0	1,060	0.0	2.8	7.8	1,060	0.0			
ピーマン	100	200.0		15.0	15.0	0.0	15.0	1,620	0.0	0.0	15.0	1,620	0.0			
ホウレンソウ	2,400	900.0		560.0	560.0	0.0	515.0	58,428	0.0	45.0	560.0	58,428	0.0			
ブロッコリー	300	500.0		380.0	380.0	0.0	380.0	0.0	0.0	0.0	380.0	0.0	0.0			
白ネギ	300	500.0		6,223.9	7,023.9	697.0	4,740.0	795,822	0.0	0.0	546.9	5,286.9	0.0	1,070.0		
小計	12,010.0	71,900.0	800.0	6,223.9	7,023.9	697.0	4,740.0	795,822	0.0	0.0	546.9	5,286.9	0.0	1,070.0		

生産部門	品名種類	作付面積 ㎡	生産計画 数量 kg	前年度か らの繰越 数量 kg	生産量 kg	計 kg	使用 kg	場内				場外数量				分類 単 価	差引 額	備考		
								生産量		消費		自給外使用		消費					計	
								数量 kg	金額 円	数量 kg	金額 円	数量 kg	金額 円	数量 kg	金額 円				数量 kg	金額 円
ナガイモ		30	500	100	54.0	64.0	28.0	0.0	0.0	11.0	11.0	0.0	0.0	23.0						
生物工学研究室 在来品種		30	500	150	73.0	36.0	0.0	0.0	0.0	9.0	9.0	0.0	0.0	43.0						
フナギョウ		60	1500	800	80.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
小計		120	2500	250	207.0	232.0	144.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	63.0						
白ネギ		7000	13,000.0		11,392.0	11,392.0	0.0	7,311.0	1,448,008	0.0	4,081.00	11,392.0	1,448,008	0.0			前年度在庫増減部分			
白ネギ生産		300	2,000.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
埼玉県産		300	2,000.0		1,000.0	1,000.0	210.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	790.0						
サウマイネ		20	500.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
サウマイネ生産		300	500.0	800.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
ニンジ		909	2,800.0		1,709.0	1,709.0	0.0	1,190.0	81,563	0.0	510.00	1,709.0	81,563	0.0						
ニンジ生産		8,820.0	18,500.0	800.0	14,092.0	14,892.0	310.0	8,701.0	2,073,263	0.0	3,091.0	13,792.0	2,073,263	0	790.0					
蕎麦		3,000	3,000.0		2,227.0	2,227.0	81.00	1,984.0	0	0	0	0	0	2,146.0	0.0					
蕎麦生産		3,000	3,000.0		2,837.0	2,837.0	177.00	2,296.0	0	95.0	265.0	2,600.0	0	0.0	0.0					
花助所		1,500	1,500.0		1,337.0	1,337.0	270.00	527.0	0	6.0	540.0	1,097.0	0	0.0	0.0					
河原田善地		2,000	2,000.0		1,753.0	1,753.0	728.00	785.0	45.0	0.0	215.0	1,025.0	326,036	0.0	0.0					
藤太郎		5,430	10,200.0		1,232.3	327.00	671.0	134,200	100	134.3	805.3	134,200	0	0.0	0.0		注: 注: 藤太郎、河原田善地、藤太郎は前年度に計上			
その他のカキ		14,900.0	10,700.0	0.0	9,386.3	9,386.3	1,583.0	5,823.0	490,236	244.0	0.0	1,736.3	7,803.3	460,236	0.0	0.0				
小計		700	2,000		1,711.0	1,711.0	0.00	595.0	0	0.0	450.0	1,045.0	0	865.0						
ナガイモ		580	1,000		1,100.00	1,180.0	0.00	0.0	40,500	0.0	245.0	245.0	40,500	885.0			前年度在庫増減部分			
ナガイモ生産		2,228	2,000		2,560.20	2,560.2	399.90	1,511.4	1,139,050	28.5	620.4	2,163.3	1,139,050	0.0	0.0					
フナギョウ		1,530	300		897.90	897.9	308.90	50.0	10,000	100.0	399.0	949.9	10,000	0.0	0.0					
小計		5,006.0	6,000.0	0.0	6,306.7	6,306.7	708.4	2,156.4	1,169,550	128.5	0	1,714.4	3,998.3	1,169,550	0	1,801.0				
白ネギ		1,800	6,000.0		5,194.0	5,194.0	394.0	1,838.0	240,028	0.0	3,024.0	4,860.0	240,028	0.0	0.0					
白ネギ生産		720	3,000.0		1,718.0	1,718.0	382.0	774.0	86,758	0.0	587.0	1,381.0	86,758	0.0	0.0					
その他の野菜		1,200	840.0		1,866.0	1,868.0	0.0	1,030.0	60,250	0.0	838.0	1,868.0	60,250	0.0	0.0					
花井		500	2,100.0		999.0	5,899.0	199.0	3,448.0	731,052	0.0	2,932.0	5,740.0	731,052	0.0	0.0					
トビ		100	2,900.0		699.0	699.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
フナギョウ		4,320.0	14,940.0	0.0	15,373.0	15,444.0	2,088.0	1,118,066	0.0	6,741.0	13,823.0	1,118,066	0.0	0.0	0.0					
小計		89,220.0	407,960.0	1,635.0	110,346.1	111,974.1	15,370.5	59,907.4	11,277,166.0	1,024.9	0.0	31,943.1	92,874.5	11,277,166.0	0.0	3,923.0				

※その他、平成26年度出荷分調整結果表(71,294円)有。

事業名 (補助)有機・特別栽培を可能にする病害虫管理 体系の構築		担当室別		環境研究室	
実施計画期間		平成26年度 平成29年度		(予算額) 支出済額	(3, 280, 000円) 2, 624, 000円
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
ナシの病害虫管理 体系の構築	本場	ほ場40a	突発的なマイナー害虫の発生 にも対応可能な、特別栽培に 対応したナシの病害虫管理体 系を構築する。	(成果) ・ナシの特別栽培体系では、害虫による 被害、黒星病の発生は慣行栽培と同程 度であった。 ・黒斑病と黒星病に効果があり、葉害が 少ない無機銅剤が明らかになった。 ・水和硫黄剤は、うどんこ病に対する効 果が高かった。 (課題) ・特別栽培体系におけるうどんこ病対 策。 ・うどんこ病に効果が高く、葉害が少な い水和硫黄剤の倍率。	
ネギの病害虫管理 体系の構築	西園ほ場	ほ場4a	特別栽培に対応したネギの病 害虫管理体系を構築する。	(成果) ・ネギのコンパニオンプランツは、病害と 雑草に対する効果が認められた。 ・赤色防虫ネットによるネギアザミウマ の密度抑制効果が認められた。 (課題) ・ネギアザミウマ等の害虫対策として他 のコンパニオンプランツの検討。 ・病害対策として微生物資材の検討。	
ブロッコリーの病害 虫管理体系の構築	本場	ほ場18a	有機栽培に対応したブロッ コリー病害虫管理体系を構築す る。	(成果) ・初夏どりブロッコリーでは、無機銅剤と 微生物資材を利用した体系は、慣行栽 培に比べ花蕾腐敗病の発生が同等～ やや少ない発生であった。 (課題) ・コンパニオンプランツとして利用する大 麦の播種量及び播種方法の検討。	

(平成26年12月31日現在)

事業名	(委)新農薬適用試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成10年度～		(予算額) 支出済額	(5, 238, 000円) 4, 190, 400円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
果樹病虫害の防除薬剤の実用化	本場	ほ場33a	果樹の新規薬剤の防除効果等を検討し、各果樹の防除歴を編成する。	(成果) ・ナシの黒斑病、黒星病、うどんこ病、カメムシ類、ハダニ類、ニセナシサビダニ、アブラムシ類について新規薬剤の効果が明らかとなった。ナシ防除暦には1剤の新規薬剤を採用した。 (課題) ・農薬の短期暴露評価の導入に対応した農薬適用拡大推進。
野菜・花き病虫害の防除薬剤の実用化	本場 月浜砂丘地分場	ほ場62a	野菜、花きの新規薬剤の防除効果等を検討し、有効薬剤の適用拡大を図る。	(成果) ・スイカの菌核病、褐色腐敗病、うどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類、ネギのべと病、さび病、白絹病、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ、シロイチモジコトウ、プロコクローのネギアザミウマ、アブラムシ類、コナガ、アオムシ、ナガイモの炭疽病、青かび病、ナガイモコガ、ネコブセンチュウ等に対する新規薬剤の効果が明らかになった。 (課題) ・本県特産農産物の生産上問題となる病虫害の更なる農薬適用拡大推進。

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)ナシ作り新時代を拓く新品種の特性解明による高品質果実安定生産技術の確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	26年度 ～ 30年度		(予算額)	(3,762,000円)
			支出済額	2,257,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
新品種の生育特性解明	本場	ほ場 100a	新品種の特性に応じた栽培管理技術を確立する	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「早優利」は収穫直後の短期低温貯蔵により日持ち期間の延長が可能であった。 「爽甘」の収穫始めの果実へのエチレン発生剤の処理は、食味を向上させた。 「夏さやか」は収穫始めにおいて7日程度の日持ちだが、終わりになると2～5日になるため、市場出荷は収穫時期を十分見極めて行う必要があると考えられた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「秋甘泉」の落果防止技術の関する試験が十分検討できず、次年度再検討が必要
新品種の早期多収、省力整枝法の確立		ほ場 50a	新品種の特性に応じた整枝法を確立する。	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「新甘泉」の側枝更新枝を確実に確保する方法として従来より「ほぞ」を長めに残してせん定する方法が有効であった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 霜害により着果が確保できず、実施できなかった試験がある
新品種の高品質果実の安定生産技術の確立		ほ場 30a	品種に適した栽培管理技術を確立する	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「なつひめ」に対する環状はく皮処理は7日間程度の熟期促進効果が認められた。 「秋甘泉」の着果密度は8果/mとすることにより品質の高い果実が出来た。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 霜害により着果が確保できず、実施できなかった試験がある
新たな販売方法に対する新品種の適応性の検討		ほ場 30a	輸出、加工への適性調査を行う	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「なつひめ」はカット後の褐変が少なく、液だれも多くないことからカットフルーツとして適した品種と考えられた。 「新興」の台湾への輸出用樹木の収量増加に対し、環状はく皮処理が有効であることが認められた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 果肉褐変程度の評価方法が未確立である

(平成26年12月31日現在)

事業名	(準)鳥取のナシ産地再生に向けた園期的栽培技術の確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	26年度 ～ 28年度		(予算額) 支出金額	(1,504,000円) 902,400円
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ジョイント仕立ての 栽培体系の確立	本場	ほ場 50a	本県育成品種のジョイント栽培 技術を確立する。	(成果) ・ジョイント用苗木育成時に伸長させる 部分以外の芽から発生する葉は除去し ても新梢伸長には影響しないことが明ら かになった。 ・ジョイント後1年目の冬におけるせん定 強度を3段階に分けて、比較検討した が、処理1年目における差は認められな かった。 ・1年間の育苗によりジョイント可能な長 さまで新梢を伸ばす方法を検討したが、 目標とする長さの苗は得られなかった (課題) ・1年間の育苗でジョイント可能な長さを 確保する育苗技術の確立 ・霜害による着果不良のため果実品質 に関わる試験が実施できなかった。
自家和合性品種の 特性を活用した省力栽培体系の確立	本場	ほ場 30a	「新甘泉」・「秋甘泉」混植によ る受粉作業の省力化の検討	(課題) ・霜害による着果不良のため本年度予 定の試験は出来なかった
スマート農業の実 現に向けた栽培体 系の検討		ほ場 10a	アシストスーツなどの作業補 助具の導入効果を検討する	(成果) ・農業用アシストスーツ、作業用腕支持 具による筋負担軽減効果が認められた が、作業内容により効果に差が認めら れた。 (課題) ・現場における導入効果の実証

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)ナンの気候変動に対する適応技術の確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	26年度 ～ 30年度		(予算額) 支出済額	(2,258,000円) 1,354,800円
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
果実品質への影響 評価と対応技術の 確立	本場	ほ場 50a	温暖化が果実品質へ及ぼす 影響を明らかにするとともに 気象条件による減収を低減す る技術を確立する	(成果) ・「王秋」の果そう葉を半分に摘葉する ことでコルク状障害が減少することを明ら かにした。 ・「ゴールド二十世紀」は開花後2日目に は受精能力が低下する傾向を示した。 ・かん水チューブを用いた散水水結処 理により霜害を減少することが出来た (課題) ・霜害により結実安定対策に関する試 験が実施できなかった
樹体への影響評価 と対応技術の確立		ほ場 50a	温暖化が樹体へ及ぼす影響 を明らかにするとともに気象 条件による減収を低減する技 術を確立する	(成果) ・「夏さやか」の耐凍性は他の主要品種 に比べ低いことが明らかになった ・霜害などによる着果不良樹に対して新 梢摘心処理を行うことにより花芽や側枝 の維持が容易になることが明らかにな った ・霜害対策として5L缶を20個/10a設置 し、芯材としてロックウールを使用する 燃焼法が、安価で有効な方法ではない かと考えられた。 (課題) ・「夏さやか」の凍害を防ぐ技術の確立 ・霜害対策技術の実証
地下部への影響評 価と対応技術の確 立		ほ場 30a	温暖化が地下部(根系)へ及 ぼす影響を明らかにすると ともに気象条件による悪影響を 低減する技術を確立する	(成果) ・現地試験圃において元肥を廃止した 施肥量削減体系を実施し、処理開始か ら3年目も問題がないことを確認した。 (課題) ・本年度は霜害による着果不良のため 果実品質の評価が行えなかった。施肥 量削減技術について継続して調査する

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)「食のみやこ」を支える多様な野菜品目の生産安定技術の確立		担当室別	野菜研究室	
	実施計画期間	平成23年度 ～平成26年度		(予算額) 支出済額	(1,032,000円) 619,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
伝統野菜「三笠甘長とうがらし」の露地栽培安定生産 (H23～26)	本場	露地ほ場 1.8a	・露地栽培に適した整枝方法を明らかにする。	(成果) ・4本直立整枝は総収量が多く、秀品率も高く有効な整枝方法であった。不織布トンネルによる早期定植は総収量は増加するが、収穫前進効果は少なく、霜害の危険があった。 (課題) ・収穫の前進化	
アスパラガスの生産安定 (H23～26)	本場	露地ほ場 2.0a	・新植時の土壌改良の簡素化を図る。 ・鳥取県に適した品種を選定する。	(成果) ・定植4年目も定植部分に堆肥を盛り、堆肥を覆うように敷いた区が規格以上収量、総収量とも多かった。 ・品種は「グリーンタワー」が収量性が高く、規格以上の割合も高いため有望であった。 (課題) ・定植5年目以降の生育、収量の経年変化の確認	
サツマイモの良食味品種の栽培特性の解明 (H23～26)	弓浜砂丘地分場	ハウス 0.1a	有望品種の本県における栽培特性を明らかにする。	(成果) ・「べにはるか」は早掘り、普通掘りとも「ベニアスマ」、「クイクスイード」よりも収量性は劣るが商品率が高く、栽培上の問題点もないことから適性があると考えられる。 ・「クイクスイード」の採苗は硫酸100g/m ² を追肥することで蔓が伸長し、採苗効率が80%に向上した。 (課題) ・良食味品種の栽培技術の確立	
イチゴの出荷量拡大技術の確立 (H23～26)	本場	ハウス 4.0a	・EOD加温による冬期草勢維持による増収技術の確立。 ・鳥取県に適した品種を選定する。	(成果) ・日没後3時間の20℃加温は2月までの早期収量が慣行加温の122%、総収量も113%で増収し、燃料消費量は慣行加温の95%であった。 ・本県育成のK7279-4は「章姫」よりも収量性がやや劣るが、早生性、糖度、硬度、食味が優れることから、品種登録することにした。 (課題) ・簡易で省エネな加温システムの開発 ・有望系統の栽培技術の確立	
ニンジンの高品質・多収栽培技術の確立 (H23～26)	弓浜砂丘地分場	露地ほ場 2.9a	・収量性が高く、品質の良い品種を選定する。 ・春まきニンジンの早期出荷技術を確立する。	(成果) ・8月上旬、下旬播種ともZ203が慣行品種「ベータ312」よりも収量性、秀品率が高く有望であった。 ・6月上旬の収量安定には本葉4、5枚時にべた掛けを除去して追肥する体系が良いと考えられた。 (課題) ・適正な施肥管理および土壌水分の影響について調査する。 ・経年的な品種比較の実施。 ・簡易なトンネル栽培技術の確立	

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)鳥取スイカのブランド強化に必須となる安定出荷技術の確立		担当室別	野菜研究室
実施計画期間	平成23年度 ～平成26年度		(予算額) 支出済額	(1,420,000円) 852,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
生産安定技術確立 (H23～26)	本場	ハウス 10a 露地ほ場 18a	<ul style="list-style-type: none"> 花粉充実のための簡易保温方法を検討する。 収穫前裂果の要因を解明する 黒点根腐病に強い有望台木の栽培特性を明らかにする。 ハウス栽培におけるかん水指針の土壌適応性を調査する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年は気温が安定していたため着果率向上効果は判然としなかったが、不織布の終日半分被覆、交配部分の黒マルチ処理により花粉発芽率が向上した。 果実肥大後期に日中低温遭遇すると果実肥大が一時的に抑制されたが、裂果は発生せず関連は不明であった。 「ユウガオ台木「強者」は定植後の生育は慣行台木よりもやや劣るが、収穫前の草勢は強く、果実品質にも問題なかった。 腐植質黒ボク土、淡色黒ボク土のいずれとも蔓先側60cmの深さ20cmが土壌pF2.7で20mmかん水することで土壌水分の維持、品質の安定が図られた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 花粉充実の低温状況下での効果の検証
省力栽培技術確立 (H23～26)	本場	ハウス 4a 露地ほ場 12a	<ul style="list-style-type: none"> トンネル栽培における低節位着果栽培による省力化。 ハウス栽培における無トンネル栽培の実証 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 着果節位15節を境に空洞果の発生が多く、子房が小さいことが理由と考えられた。 3月中旬定植のハウス不織布べた掛け栽培は収穫時期がトンネル栽培より4日程度遅れるが、果実肥大、品質に問題なく、実用の可能性があった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 低節位着果栽培の空洞果防止 べた掛け栽培の年次変動確認

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)黒ボク畑地域の野菜供給量拡大と高品質生産技術の確立		担当室別	野菜研究室
実施計画期間	平成26年度 ～平成28年度		(予算額) 支出済額	(1,224,000円) 734,400円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
多様な消費ニーズに対応したブロックリー生産技術の確立(H23～26)	本場	露地ほ場 1.8a	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、10月、12月、2月収穫作型の適品種を選定する。 ・5月収穫作型の生産安定化を図る。 ・収穫予測のための花芽分化時期等のデータを収集する。 ・加工、業務用向けの多収栽培技術を確立する。 ・低硝酸ブロックリーの安定生産技術を確立する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月収穫作型の育苗はは種後35日頃から定植前までに3回程度液肥施用するのが望ましい。 ・6月収穫品種はTSX-303、SK9-099が有望であった。 ・他は調査中。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有望品の経年変化の確認
施設野菜の生育障害克服等による生産技術の確立(H23～26)	本場	ハウス15a	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根散水による夏季の高温対策の経年変化を調査する。 ・ミニトマト、中玉トマトの果実障害防止技術を確立する。 ・高温期のホウレンソウ栽培技術の確立するとともに、多収品種の生育特性を解析する。 ・葉ネギの冬季葉先枯症の原因解明と対策を確立する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋根散水により抑制中玉トマトの可販収量が20%増加した。 ・中玉トマトのトマトーン処理濃度を100倍に高めることで障害果が減少し、果実肥大も良好となった。 ・高温期のホウレンソウは種後に有機石灰を散布すると地温上昇が抑制され、生育促進、増収となった。 ・ホウレンソウ10月中旬は種では、「チェックメイト」、YPP142、「ブレード10」が有望であった。 ・冬季栽培の葉ネギはハウス内気温が25℃以上に急上昇すると発生することが明らかとなった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温期のミニトマト障害対策 ・多収ホウレンソウ品種の選定 ・葉ネギ葉先枯症の対策確立

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)簡易・迅速土壌診断による野菜の適正施肥技術の確立		担当室別	野菜研究室
実施計画期間	平成26年度 ～平成29年度		(予算額) 支出済額	(1,005,000円) 603,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
土壌診断促進技術の開発(H26～29)	本場 および 現地ほ場	現地ほ場10ヶ所	<ul style="list-style-type: none"> ・水抽出方による土壌分析値の実用性を確認する。 ・簡易吸光度計を活用した土壌診断方を開発する。 ・スイカープロコラー体系の現地土壌養分実態を明らかにする。 	(成果) ・可給態窒素の簡易診断は精度が不十分であった。 (課題) ・簡易診断のデータ蓄積による精度向上とマニュアル化
土壌養分に応じた施肥基準の作成(H26～29)		露地ほ場12a	<ul style="list-style-type: none"> ・堆肥施用下における適正窒素施用量を明らかにする。 ・土壌蓄積リン酸、加里の有効利用基準を明らかにする。 ・スイカープロコラーの養分吸収特性と肥効実態を明らかにする。 	(成果) ・過去に堆肥を3年間連用したほ場では、施肥は堆肥のみで窒素を無施用としてもスイカの収量、品質に問題なかった。 (課題) ・経年変化の確認

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)気象変動に左右されない花類の 高品質化技術の開発		担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成21年度 ～平成27年度		(予算額) 支出済額	(1,433,000円) 859,800円
試験研究 調査の目的	試験研究 調査 を行う場所	試験研究調 査の対象・ 数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
シンテポウユリ(秋 冬出荷)のプラスチック ・花首徒長対策の 検討	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・秋以降に多く発生する花首徒長やプラスチックによる品質低下の対策を検討する。 ・抽台率低下の原因を明らかにし、抽台促進技術を検討する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪が見えてから花首が伸び始めるまでの期間にわい化剤を散布すると、花首徒長が抑制された。 ・定植前2週間の苗冷蔵(5℃)が、定植前1ヶ月間の夜冷(夜間18℃以下)で、抽台率向上効果が認められた。 ・定植後の網霧冷房処理により、抽台が早まり平均採花日が1週間早まった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わい化剤の希釈倍率、散布時期、散布方法の検討 ・簡易夜冷装置、網霧冷房による低温処理の検討 ・抽台率促進技術(冷蔵処理、網霧冷房処理)の現地検討
トルコキョウ(秋出 荷)草丈伸長技術の 確立	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・高温下でも十分な草丈が得られる栽培法を確立する。 ・育苗中の温度管理とCO₂施用による草丈伸長法の検討 ・定植後の温度と日長管理による草丈伸長法の検討 	<p>(成果)(育苗管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷房育苗中に「簡易CO₂剤」によるCO₂施用と、蛍光灯照射により生育が早まり、葉枚数が増え、地下部や地上部重量が増加した。 <p>(課題)(育苗管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポットクーラーを利用した、簡易夜冷育苗による継続調査。 ・育苗中の冷蔵程度と定植後のLED(遠赤色)照射の関係解明 <p>(成果)(定植後管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷房育苗中にCO₂施用+赤色光照射し、定植後の生育期前半を赤色光照射し、後半を遠赤色光照射とすれば、慣行に比べ1.3倍の切り花長が得られた。 ・赤色光の代わりに蛍光灯、遠赤色光の代わりに白熱灯を用いても、試作ライトと同等の効果が得られた。 ・県内企業と共同開発中のLED(遠赤色)照明を用いると、切り花長は白熱灯に比べ1.2倍伸長した。 <p>(課題)(定植後管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な光照射時間や照射密度の検討 ・LED(遠赤色)照明の効果的な照射条件の検討
ストックの花首徒長・ うらごけ対策の検討	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌水分やECの推移が草姿に及ぼす影響を検討する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育後半の施肥・灌水管理が、花首徒長やうらごけの発生に影響していると考えられた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草姿を改善するための効果的な灌水方法及び液肥施用法の検討
花壇苗のわい化と花 蕾増加法の検討	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗期間の延長や日長制御による高品質栽培法を確立する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペチュニアの鉢上げを2週間遅らせると、わい化剤散布と同等のわい化効果が得られた。これは、春～初夏の処理でわい化効果が高かった。 ・アゲラタムなど数品目は、鉢上げを遅らせると花蕾が僅かに減少した。 ・アゲラタム育苗中に夜間電照すると、分枝数が増加し花蕾が増えた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わい化効果が高い鉢上げタイミングのマニュアル化。 ・育苗期間延長と日長処理の組み合わせによる品質向上試験。

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)EOD反応を活用した花き類の鳥取型栽培技術の確立	担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成22年度 ～平成28年度	(予算額) 支出済額	(2,882,000円) 1,729,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標
試験研究調査の成果・課題			
現場利用可能なEOD加温+光照射法の検討と経営試算	本場	ハウス 4a	<ul style="list-style-type: none"> ・生産現場を想定した品種によるEOD反応の検討 ・生産現場を想定したEOD加温法(局所加温、保温等)の検討 ・結果の組合せによる栽培実証と経営試算
現場調節指標に基づいた超低コストEOD栽培法の検討	本場	ハウス 4a	<ul style="list-style-type: none"> ・EOD処理に対する反応性の高い品種の検索 ・EOD効果を高める日中の温度管理方法の検討
普及性の高い広照射LED(FR)照明器具の開発	本場	ハウス 4a	<ul style="list-style-type: none"> ・広照射のための改良とFR:R光の組合せによる開花促進効果の高い照明器具の開発 ・試作照明によるEOD光照射効果の検証
			<p>(成果)【トルコギキョウ(春彼岸出荷)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EOD加温と光照射の組合せで、慣行加温に比べ暖房費を30%削減しながら栽培期間は約1か月早まった。 ・EOD加温後の夜間温度について、未明から朝方までの夜後半を13℃から10℃まで下げる夜変温管理を行うことにより、一定夜温(13℃)管理よりも開花が早くなることが明らかとなった。 <p>(課題)【トルコギキョウ(春彼岸出荷)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LED-FR灯によるEOD光照射試験を行い、開花促進、草丈伸長等の効果を実証する。 <p>(成果)【ストック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花芽分化期前から、遠赤色(FR)光を豊富に含む白熱灯を日没後3時間照射(EOD光照射)を行うと、採花が早くなり採花期間も短くなった。 ・花芽分化後からのEOD光照射でも僅かではあるが採花の促進効果が認められた。 <p>(課題)【ストック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈伸長効果に優れるEOD光照射条件(照射時期および期間等)の検討 <p>(成果)【花壇苗類(早春出荷)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、花き60品目を供試してEOD加温、EOD光照射、EOD加温+EOD光照射併用による反応性や、生育促進効果が最も高い処理の組み合わせを明らかにしている。 <p>(課題)【花壇苗類(早春出荷)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験結果で明らかになった、EOD加温やEOD光照射に反応の高い品種については、EOD加温+EOD光照射の併用処理と単独処理等を比較して、その効果を明らかにする。 <p>(成果)【トルコギキョウ(春彼岸出荷)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トルコギキョウの春出し栽培は、EOD加温による省エネと、EOD光照射による栽培期間短縮効果により、量産型に比べ超低コストを30%以上削減し、栽培期間を1ヶ月以上短縮できることが明らかになった。 <p>(課題)【トルコギキョウ(春彼岸出荷)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取大学での試験「EOD処理による作用機構の解明」で明らかになった指標に基づいて、EOD効果を高める1日の温度管理法を明らかにし、燃料費を40%以上削減して、慣行と同等以上の品質となる栽培技術を確立する。 <p>(成果)【ストック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストックはEOD光照射により開花が早まり、試作中のLED(FR)照明を用いると、白熱球の1/2の設置灯数で開花促進効果を生じることが明らかになった。 <p>(課題)【ストック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広範囲に照射可能で、照射ムラが少ない試作LEDの設置高と設置間隔を明らかにし、様々なハウスを想定した設置(照射)シミュレーションを作成する。 <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EOD光照射で生育促進効果が高いトルコギキョウ、ストックに対する試作LED照明の波長や、効果が及ぶ範囲を調査中である。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広範囲に照射可能で、照射ムラが少ない試作LEDの設置高と設置間隔を明らかにし、様々なハウスを想定した設置(照射)シミュレーションを作成する。これらにより、トルコギキョウ、ストックの栽培期間を慣行栽培に比べて20%以上短縮する。 ・生産現場への情報提供。

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)市場競争力のある鳥取オンラインワ ン園芸新品種の育成	担当室別	果樹研究室、河原試験地、砂丘地農業センター、 野菜研究室、花き研究室、弓浜砂丘地分場
実施計画期間	平成23年度 ～平成27年度	(予算額) 支出済額	(1,333,000円) 799,800円
試験研究 調査の目的	試験研究 調査を行う場所	試験研究調 査の対象・ 数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標
試験研究調査の成果・課題			
ナン新品種の育成	果樹研究 室	場内露地 ほ場 10a	・ナン新品種、新系統の 鳥取県における適応性を 検討する。 (成果) ・種早生品種としては、神奈川県育成の「香麗」が有望であった。 ・晩生品種としては、「B2604-11」真甘、「筑波58号」が有望であ った。 (課題) ・本格的に結実が始まる本県育成の3系統、神奈川県が育成した 「香麗」「なつみず」、長野県育成の「サザンサイト」の特性に特 に注目して調査する。
カキ新品種の育成	河原試験 地	場内露地 ほ場 10a	・育種系統の特性調査を 行い、選抜を進める。 (成果) ・14系統の果実の品質調査を行った。熟期が10月中旬であるが糖 度が20%を超える美味のよい系統があった。 (課題) ・継続して特性調査を行う。
新しい青ブドウの選 抜	砂丘地農 業研究セ ンター	場内ハウ ス 3a	・12g以上で糖度18度 以上の青ブドウの創出 (成果) ・4系統のうち3系統が着果した。 ・移植後初年度であり、各系統とも着果数は少なく、果実品質も良 くなかった。 (課題) ・各系統の品種特性の継続調査。
スイカ新品種の育成 と実用化	野菜研究 室	場内ハウ ス4.4a 場内露地 ほ場3.0a	・有望系統の栽培実用性 確認。 ・黒点根腐病に強いスイ カ台木の育成。 (成果) ・「どんなもん台×101212」は果実肥大、糖度で有望であった。スイ カ特有耐病抵抗性の高い系統を新たに固定化した。 (課題) ・有望系統の実用性および現地適応性確認
イチゴ新品種の育成 と実用化		場内ハウ ス4.0a	・多収で食味の良いイチ ゴ育成のための、交雑実 生による育成と選抜。 (成果) ・有望と認められた1系統を品種登録出願することとした。 (課題) ・有望系統の継続選抜と現地適応性確認
シバ優良系統の育成		場内露地 ほ場 3a	・葉枯病耐性・生育旺盛 揃いの良いコウライシバ の育成 (成果) ・地下部の生育が旺盛で株張りが早く、紅葉が非常に遅い系統を 選抜した。 ・この系統は、ゴルフ場の葉枯病常発場所に定植しても発病せ ず、耐病性が高いと判断した。 (課題) ・継続調査。
実つき枝物の優良系 統の育成	花き研究 室	場内露地 ほ場 2a	・既存品種が皆無である ことから、本県で確立した 樹形管理に適した品種を 育成する。 (成果) ・ノイバラは実数が多く、枝の姿が良い「T-3」を有望と認めた。ここ から4年25年からうどんこ病の発生が見られ、品質が低下したこと から登録出願を断念することになった。 ・ツルウメモドキは実が大きく、実数が多い「T-10」を有望と認め た。 ・サルトリイバラは県内自生種の中から、棘が極めて少ない系統 を選抜した。 (課題) ・品種登録のための生育調査
白ネギ坊主不知の優良 晩熟品種の育成	弓浜砂丘 地分場	場内露地 圃場2a	・優良系統の育成を行 う。 (成果) ・交配母本として現地優良系統5系統を収集し、園試保有5系統 のウイルスフリー化を行った。これらのうち、3系統を交配し、得ら れた種子を播種して、1次選抜を行い、約200個体を育成中。 (課題) ・選抜した系統の実用性について特性調査を行う。

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単) 露地を有効利用する花きとシバの省力・高付加価値栽培法の開発		担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成26年度 ～平成30年度		(予算種別) 支出済額	(1, 220, 000円) 732, 000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
シントポウユリ(季咲き)の省力化による長期出荷体系の確立	本場	ほ場 2a	<ul style="list-style-type: none"> シントポウユリの品種や苗冷蔵等を組み合わせた秋彼岸出荷作型の確立 露地における収穫期分散法の確立 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の葉菜類移植機を利用した機械定植の現地実証を行ったところ、定植時間は慣行の10分の1になった。 ロング肥料による追肥省力化を検討したところ、追肥なしでも慣行と同等の切り花品質を確保できた。 定植後のべたがけ資材(不織布)被覆により、採花時期が前進した。 晩生品種を定植前苗冷蔵すれば、露地の9月彼岸前出荷が可能と考えられた。 'F1オーガスタ'においては、3月中旬に播種し、6月中下旬に定植すると彼岸前出荷が可能と考えられた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 品種・定植日・低温処理を組み合わせて、露地で秋彼岸前に出荷する作型を確立する。
実付き枝物における省力・高付加価値栽培技術の確立	本場	ほ場 5a	<ul style="list-style-type: none"> 品目に応じた誘引法を検討する。 省力化で高付加価値商品の栽培技術を確立する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実つき枝物ノイバラの園地栽培を検討した結果、慣行の放任栽培に比べて、3倍の収量が得られる誘引方法が明らかになった。 果樹棚を利用したツルウメドキの誘引法を検討した結果、労働時間が慣行(放任)の20分の1になり、品質が著しく向上した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> さらに省力的なツルウメドキの地這い誘引や吊り上げ誘引等による、省力かつ高付加価値栽培技術の確立 ツルウメドキ等の出荷調整に最適な、省力落葉法の検討 サルトリイバラの省力誘引法の継続調査。
シバオリジナル育成品種等の生産性向上をめざした栽培技術の確立	本場	ほ場 5a	<ul style="list-style-type: none"> 'グリーンバードJ'とバミュダグラスの生育比較による利用法の検討 'グリーンバードJ'の砂土圃場における生育特性の把握と生産技術の確立 'グリーンバードJ'の砂土栽培法や黄化症等の生理障害の発生回避法のマニュアル化 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 'グリーンバードJ'とバミュダグラス'ティフトン419'をポット苗で定植し、生育状況を調査した結果、'グリーンバードJ'は'ティフトン419'の80%の被覆率であった。 ただし、'グリーンバードJ'は早期に灌水をやめても株張りが悪らなかつたことから、灌水施設の簡素化が可能と考えられた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 'グリーンバード'と'ティフトン419'の生育を継続して調査し、それぞれに適した利用法を検討する。 'グリーンバードJ'の砂土圃場における生育特性を調査し、砂土での生産技術を検討する。

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)園芸産地を守る難防除病害虫防除技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成23年度 ～ 平成27年度		(予算額) 支出済額	(2, 252, 000円) 1, 351, 200円
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ホウレンソウケナガ コナダニの防除体 系の確立	本場	ほ場3a	ホウレンソウケナガコナダニ に対する効果の高い防除体 系を確立する。	(成果) ・稲わら設置による土着天敵の保護を 利用したホウレンソウケナガコナダニの 防除方法は、効果が不十分であること が分かった。
ブロッコリーの難防 除病害に対する防 除対策の確立	本場	ほ場12a	ブロッコリーの黒腐病及び苗 核病に対し、効果の高い防除 技術を確立する。	(成果) ・黒腐病に対し、抵抗性誘導剤は発病 抑制効果が認められ、効果的な処理方 法が明らかになった。 (課題) ・効果的な防除体系の確立。
ラッキョウの赤枯病 に対する温湯消毒 等を利用した防除 技術の確立	西園ほ場	ほ場6a	ラッキョウの赤枯病について、 温湯消毒を含めた総合的な 防除技術を確立する。	(成果) ・赤枯病に対し、効果はやや低いもの の防除効果のある薬剤が認められた。 ・乾熱処理は、温湯消毒及び薬剤に比 較して、効果が低いことが明らかになっ た。 ・種球の太陽熱消毒は、温湯消毒に比 べて効果がやや低いものの、赤枯病に 対する効果が認められた。 ・温湯消毒は50℃では10分に短縮可能 である可能性が示唆された。 (課題) ・温湯消毒のさらなる処理時間短縮の 再確認。 ・温湯消毒以外の防除対策の検討。
ミニトマトのすずか び病の防除対策の 確立	本場	ほ場3a	ミニトマトのすずかび病につい て、有効な防除体系を確立す る。	(成果) ・すずかび病に治療効果を有する薬剤 が明らかになった。 (課題) ・防除体系の確立。
ナシの難防除病害 虫に対する防除技 術の確立	本場 現地ほ場	ほ場10a 現地ほ場10a	ナシの白紋羽病、黒星病、枝 枯病、胴枯病、シンクイムシ 類、ハダニ類に対する防除対 策を確立する。	(成果) ・黒星病に対して、亜リン酸肥料は2000 倍希釈でも効果が高いことが確認され た。 ・黒星病多発園では、亜リン酸肥料を利 用する事によって、発病が少なくなる傾 向が認められた。 ・新甘泉の果実腐敗症状の果実から分 離された糸状菌、細菌、酵母菌(推定) は有価接種による病原性が確認され た。また、シウジョウバエ等が腐敗の 進行を早めている可能性が示唆され た。 ・シンクイムシ類に対して、効果の高い 薬剤が明らかになった。 ・ナミハダニに対して効果の低下した薬 剤が判明し、薬剤の混用処理効果と残 効が明らかになった。 (課題) ・防除体系の確立。 ・現地での実証。

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)バイオテックによるナシ新品種シリーズの育成		担当室別	生物工学研究室
実施計画期間	19年度 ～ 28年度		(予算額) 支出済額	(3,500,000円) 2,100,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
極早生高品質ナシの育成		交雑実生:223系統 一次選抜: 434系統 二次選抜: 12系統 三次選抜: 6系統	①極早生、②自家和合性、③糖度13度以上の良食味、④炭疽病・黒斑病耐病性、⑤果重350g以上	(成果) ・極早生高品質ナシ育成のため、交配育種を実施したが、凍結害により、実生は得られなかった。 ・昨年度獲得した223個体の実生苗を遺伝子診断により、自家和合性個体126個体、黒斑病抵抗性個体61個体を選抜した。 ・前年度までにはほ場に定植した系統のうち本年度は204系統が初結実し、極早生で食味が良好な6系統を新たに一次選抜した。また、前年度までに一次選抜した12系統、二次選抜した6系統のうち、今年度も食味及び果実品質が優れたナシを二次選抜で3系統、三次選抜で1系統それぞれ選抜した。 (課題) ・極早生良食味系統の開発
高品質黒斑病抵抗性ナシの育成		高次選抜: 15系統	①自家和合性、③糖度13度以上の良食味系統の選抜、④黒斑病耐病性、⑤果重350g以上	(成果) ・平成9年～16年に交配したナシ各種系統のうち、今年度も安定して食味や果実品質に優れたものを希望と認めた。 ・10月初旬収穫の晩生の青ナシ1系統を食味研修会に供試した結果、生産指導者から昨年と同様に好評を得た。 (課題) ・有望系統の現地高接ぎ試験
ナシ倍數体品種の育成	生物工学研究室・本場	倍數体ナシ:142系統230樹	自家和合性大玉系統の選抜	(成果) ・圃場に定植した1、2年目の系統について倍數性を調査した結果、夏さやかの倍數体19系統、新甘泉の倍數体8系統、早優利の倍數体19系統を選抜した。 ・定植3年目の系統について果実を調査した結果、食味が対照と同等の個体を含む、または調査果数が少ない夏さやかの倍數体9系統、新甘泉の倍數体7系統、早優利の倍數体3系統を再検討とした。 ・定植7年目の系統について果実を調査した結果、大玉で糖度の高い夏さやかの倍數体1系統を再検討とした。 (課題) ・倍數体の自家和合性と果実形質の調査
白紋羽病耐性ナシ台木の育成		野生種間交雑実生:16系統 倍數体台木系統:485系統	白紋羽病耐性台木の選抜	(成果) ・選抜系統よりも白紋羽病にさらに強い雑種を獲得するために、倍數体6系統の自殖系統及び4系統間の交雑実生への接種試験を実施したが、有望な交配組み合わせは見られなかった。また、野生種間交雑実生16系統の接木苗を育成し接種試験を実施したが、いずれの交配組み合わせでも耐病性は低かった。 ・マンシュウマメナシの倍數体台木について、挿木発根率が低く評価できなかった9系統及びこれまでと異なる菌株で再評価する5系統への接種試験を実施したが、いずれの系統も耐病性は低かった。 ・耐病性と生育特性を原系統と比較するために、マメナシH18の倍數体3系統及びマメナシH21の倍數体2系統への接種試験と生育調査を実施したが、2倍體と比較して耐病性は同等か低く、生育は弱かった。 (課題) ・交配母本の選定

(平成26年12月31日現在)

事業名	(株)バイオテックによるナガイモ及びラッキョウ新品種の育成		担当室別	生物工学研究室
実施計画期間	17年度 ～ 26年度		(予算額)	(3,257,000円)
			支出済額	1,954,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ヤマノイモ雑種の特性評価による選抜	生物工学研究室・砂丘地農業研究センター・現地ほ場	ヤマノイモ雑種: 予備栽培評価 38系統 本栽培評価 4系統	短型ナガイモ新系統の開発	(成果) ・前年度までに養成した38系統を予備栽培試験した結果、肥大不足および形状不良により全ての系統を淘汰した。 ・前年度までに選んだ4系統を供試し、短径で、芋の揃いの良い系統と肥大性の良い系統を再検討し、肥大不足で1系統、形状不良で1系統淘汰とした。 (課題) ・選抜系統の増殖および栽培方法を改良し再評価
ヤマノイモ雑種有望系統の収量性回復試験		ヤマノイモ雑種有望系統1U61	弱毒ウイルスを接種した有望系統1U61の種苗増殖	(成果) ・前年度、ウイルス病による収量の低下を防ぐために、弱毒と推定されるウイルスを有望系統1U61に接種した。栽培により種苗を8倍に増殖した。 (課題) ・種苗増殖および収量比較試験
乾腐病耐性のラッキョウの育成		交雑実生育成: 約5000個体+約3000個体 ほ場選抜 西園ほ場2a 砂研センター ハウス2a	ラッキョウ乾腐病耐性系統の開発	(成果) ・乾腐病抵抗性優良品種育成をめざし、交配・子房培養し、交雑種を約5000個体獲得し、養成中。前年度に獲得した交雑種約3000個体についても組織培養で養成中。 ・3次選抜系統10系統の中から、収量性が高い耐病性系統4系統を選抜した。 ・前年度までに選抜した大玉系統R5の有機栽培での実用性を評価した結果、耐病性及び肥大性に優れ、実用性は高く、平成26年度に種苗登録申請予定。 ・灰色かび耐性にも優れる優良品種育成のため、不稔である玉系からコルヒチン処理により五六倍体を作成し、交配母本として供試し雑種を獲得した。 (課題) ・食品加工適性評価、食味評価、選抜系統の増殖
赤いらっきょうの育成		ラッキョウと赤タマネギとの雑種: 1系統	赤い色の生食用ラッキョウ(エシャロットタイプ)の育成	(成果) ・ラッキョウ栽培種と赤タマネギを交雑し、選抜した鱗茎の赤色が濃い1系統は、3カ所の現地試験においても実用性が認められ、平成26年度に種苗登録申請予定。 (課題) ・選抜系統の増殖。 ・現地試験で活用方法の検討

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)バイオテックによる花きニューアイテムの開発		担当室別	生物学研究室
実施計画期間	19年度 ～ 28年度		(予算額) 支出済額	(1,397,000円) 838,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
リンドウの新品種育成	花き研究室・生物学研究室・日南試験地	花き研究室 ハウス10m ² 露地ほ場1a 日南試験地 0.5a	盆咲き品種の開発	(成果) ・交配親系統の遺伝特性・採種特性等の見極めを行い、主要親系統の選抜を行った。 ・新たに極早生～早生で110系統以上、中生で約45系統の交雑種子を得た。 ・特に有望な4系統について、智頭町の農家園地で現地適応性評価を引き続き行い、極早生2系統については定植3年目においても生産者の評価が高く、有望であった。 (課題) ・新品種候補等の親系統の維持 ・新品種候補の新鮮種子の採種。 ・盆咲き新系統の育成。
		生物学研究室 ハウス:20m ²	日持ちの良い三倍体リンドウの育成	(成果) ・24年度までに得た四倍体と二倍体の交雑個体を無菌は種し、培養により増殖し、25年度に胚芽誘導を行った。 ・26年度は交雑個体(3系統16個体)を融化及び養成を行うとともに、倍率性を調査し、これらの個体が三倍体であることを確認した。 (課題) ・三倍体の特性評価(花の日持ち性など)
ユリの新品種育成	生物学研究室 花き研究室	生物学研究室 ハウス:80m ²	小球開花性の新奇性の高いユリ品種の育成	(成果) ・本年は3交配組み合わせで30花交配し、雑種獲得のための胚珠培養を現在実施中。 ・前年度に球根養成した選別雑種351個体の特性調査を行ったが有望個体は得られなかった。 ・二次選抜系統3系統、再検討系統1系統を秋冬出荷作型において検討した結果、本年は抽台率が低く、問題となった。 ・優良系統‘烏鶯1号’の特性解明のため、抽だいに必要な低温処理条件及び育苗期間の検討等を行ったが、抽だいたった個体が少なく、さらなる検討が必要であった。 (課題) ・選抜系統の栽培特性評価および特性の解明
		花き研究室 ガラス温室20m ² 露地ほ場50m ² 生物学研究室 20m ²	彼岸に出荷できる抑制作型に適するシンテップウユリの開発	(成果) ・16年度までにシンテップウユリとタカサゴユリを交雑し種子を得た。 ・19～26年度は系統内で集団育種法により、目標とする形質(短日開花性など)を持つ優良系統の選抜および世代更新をくり返し行い、慣行品種と同等以上の抽だい率、品質のある3系統を選抜した。 ・26年度は選抜した3系統の特性評価およびシンテップウユリの戻し交雑を行った。 (課題) ・選抜系統の栽培特性評価
觀賞用ラッキョウの新品種育成	生物学研究室・現地ほ場	生物学研究室 ビニールハウス 現地ほ場	鉢物品目としての実用性評価	(成果) ・‘フリティルビー’以外に鉢物出荷用として花色の異なる2系統を選定し、種苗登録申請を行なった。 (課題) ・現地への種苗普及

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)多チャネル販売に対応した「おびりっ娘」等生産技術の確立	担当室別	砂丘地農業研究センター	
実施計画期間	23年度 ～ 27年度	(予算額)	(2,094,000円)	
		支出済額	1,798,400円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
1 高品質「おびりっ娘」、「ナガイモ」の生産技術の確立				
(1)「おびりっ娘」における栽培特性の調査	砂丘地農業研究センター	圃試験圃地場 0.32a	子芋50g、頂芽30gにおける生育を統計的に調査し、「おびりっ娘」の栽培特性を明らかにする。	(成果) ・生育は、子芋の方が調査より早かった。 ・地上部葉はいずれも6月下旬～7月下旬にかけ急激に増加し、10月中旬より葉の黄化が始まり、黄化ともともに急激に減少した。 ・生育は6月下旬までは頂芽の方が早かったが、それ以降は差がなかった。 ・生育は子芋の方が頂芽より早く増加し、収穫時子芋の方が多かった。 ・アタの消失はいずれも8月下旬頃から減少しはじめ、10月下旬に完全に消失した。 (課題)終了
(2)頂芽保存法の検討		圃試験圃地場 0.5a	頂芽の利用率を高めるため、保存方法の違いが違い、栽培中、霜に発生後、出荷率、収量に及ぼす影響を調査し、最適な頂芽保存方法を検討する。	(成果)頂芽後、土中保存またはポリビニルキュート保存する方法が減少率を低くし、収穫率と収量を確保する方法と考えられた。また、切断面の押カビの発生は収量に影響しなかった。 (課題)保存方法および調査時期の違いについて継続調査する。
2 生産安定技術の確立				
(1)黒腐病発生原因の調査				
ア 施肥法による影響	砂丘地農業研究センター	東園圃地場 2.18a	過去に、黒腐病発生した作場において、生育初期から中期の灌漑量の違いが、黒腐病の発生、収量および品質に及ぼす影響を検討する。	(成果)圃地間で黒腐病の発生が多く見られる傾向だった。灌漑量増加で比較すると、7月増肥の有無が発生率、発生度に影響を及ぼさなかった。4月増肥によって黒腐病の発生が助長されるのではいかと考えられた。 (課題)継続調査が必要。
イ かん水および施肥による影響		センター作場 1.2a	かん水量と施肥量の違いが、黒腐病の発生、収量および根こぼ等の状況に及ぼす影響を検討する。	(成果) ・黒腐病は、施肥量が3割程度、かん水処理によって発生が増加した。そのため、施肥量とかん水量の両方に要因があるものと考えられた。 ・子根はかん水処理によって増加したが、根こぼとかん水量が根こぼの発生に及ぼす影響は弱かった。 (課題)継続調査が必要。
ウ 灌漑処理による影響		東園圃地場 0.72a	過去に、黒腐病発生した作場において、灌漑機が黒腐病発生に及ぼす影響について検討する。	(成果) ・灌漑区と比較すると、灌漑機により黒腐病の発生が顕かに見られた。 ・灌漑機によって、灌水は増加するが、リング、先コブの発生が増加し、品質低下の原因となると考えられた。 (課題)終了
(2)黒腐病発生原因の発生低減対策				
ア「おびりっ娘」における黒肥改変法の検討	砂丘地農業研究センター	圃試験圃地場 1.2a	生育初期(4,5,6月)の減肥および7月増肥の有無が、収量および芋品質に及ぼす影響を検討する。	(成果)生育初期の減肥は、芋重および黒腐病の発生に及ぼす影響は判別しなかった。また、生育初期の減肥は、7月増肥の有無にかかわらず、芋重が減少する傾向が認められた。 (課題)継続調査が必要。
イ 普通ナガイモにおける発生低減対策の検討		圃試験圃地場 1.2a	生育初期(4,5,6月)の減肥および7月増肥の有無が、収量および芋品質に及ぼす影響を検討する。	(成果)生育初期の減肥は、7月増肥の有無にかかわらず、収量は減少した。また、生育初期の減肥が、黒腐病の発生に及ぼす影響は判別しなかった。 (課題)継続調査が必要。

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)順県産地向けに打ち届くブドウ生産に向けた高収量栽培の確立	担当室別	砂丘地農業研究センター	
実施計画期間	20年度 ～ 28年度	(予算助) 支出済額	(2,100,000円) 1,260,000円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
「ビオオ」の着色優良系統への早期改植技術の確立	砂丘地農業研究センター	ほ場 13a	鳥取県にあった「ビオオ」着色優良系統の選抜	(成果)取種直前の果色調査では「河合系」「羽合系」が優れ、取種果調査では「羽合系」の果実品質が優れていた。 (課題)年次変動を調べるため継続調査が必要
1 優良系統の選抜				ほ場 5a
2 超密植栽培による早期改植技術の確立		ほ場 13a	「ビオオ」について、密植と一文字整枝栽培により成園化までの年数を短縮できないか検討する。	
青ブドウブランド化に向けた高品質果実生産技術の確立 1 「94インカド」種なし栽培				(成果)果実の厚さには差はなく、2回処理時に70%を省くと果粒が硬直となり、食味に差はなかった。省が落ちるという状態ならば、1回処理も可能であることが示唆された。 (課題)終了
(1)本豊形時の花穂長が満開時の花穂及び満開10日後の果房に及ぼす影響				「ビオオ」2回処理における本豊形時の花穂長が、満開時の花穂及び満開10日後の果房に及ぼす影響を調査する。
(2)「ビオオ」処理法の違いが果実品質に及ぼす影響	「ビオオ」1回処理、2回処理(前期処理に70%の加用の有無)について、それぞれの処理法の違いが果実品質に及ぼす影響を調査する。	(成果)花冠取り器の効果はあったが、「94インカド」の花冠は開花時に付着して残っている量は少なく、「ビオオ」処理もほとんど問題とならないので、実用性は低いと判断した。 (課題)終了		
(3)摘粒時期の検討	「ビオオ」2回処理における摘粒時期の違いが果実品質や着色未熟粒の混入等に及ぼす影響について調査する。	(成果)摘粒後の長雨と日照不足の影響を受け、各袋とも果色と糖度の停滞が目立ち、果実品質が向上したのは9/20頃であった。例年発生する日差しが少なく、「94/20」と「青竹20」は収穫後半型であった。 (課題)収穫時期の天候に恵まれなかったため、来年再調査する。		
(4)花冠取り器の効果確認	花冠は、区色かび腐感病や黒腐病の要因となる。農機機構が開発した花冠取り器の効果について確認する。	(成果)各区とも花腐の発生がなく、果実品質にも差がなく、効果は判断しなかった。70%と70%の混用散布は可能であると示唆された。		
(5)果実袋別収穫時期調査試験	5種の果実袋別に、糖度とカスリ量の関係性を調査し、果実袋別の収穫時期を調べ、長期収穫できるような栽培体系を確立する。	(成果)「ビオオ」「アパビ」が有価と判断した。 (課題)事先の霜、後の長雨や日照不足の影響を受けた品種もあったので、継続調査が必要。		
雨よけ施設による高品質果実生産技術の確立	ほ場 8a	雨よけ施設に適した品種を選定するため生食用10品種の果房品質や経済性を検討する。	雨よけ施設に適した品種の病害虫防除法を確立するため、病害虫の発生状況を調査する。	(成果)昨年と同様に「うどうこ餅」の発生があった。また、今後の悪天候のため「梨栗」と「廣れ」が同調 (課題)単年度の試験であり、継続試験が必要。
1 雨よけ施設栽培に適した品種の選定				(成果)「ビオオ」「アパビ」が有価と判断した。 (課題)事先の霜、後の長雨や日照不足の影響を受けた品種もあったので、継続調査が必要。
2 雨よけ施設栽培に適した生食用品種における病害虫の発生調査				(成果)昨年と同様に「うどうこ餅」の発生があった。また、今後の悪天候のため「梨栗」と「廣れ」が同調 (課題)単年度の試験であり、継続試験が必要。

(平成26年12月31日現在)

事業名	《新》日本一の砂丘ラッキョウ産地にもさかんい21世紀型栽培技術の確立		担当室別	砂丘地農業研究センター	
	26年度 ～ 30年度			(予算額)	(3,000,000円)
実施計画期間			支出済額	1,800,000円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
1 最適な施肥法の確立 (1)収量に影響する重点施肥時期の解明	砂丘地農業研究センター	高取市福部町ほ場 3.5a	年内梅雨において生育、収量に着目影響のある時期について検討する。	(成果) 播種量は慣行地と区と比較していずれの地区とも差異はなかったため、8月中旬と10月上旬を重点施肥時期と考えられた。 (課題) 8月中旬、10月上旬の中心の重点施肥による3ヶ月前の硝酸態窒素濃度を測定する。	
2 早出し栽培技術の確立		高取市福部町ほ場 0.5a	福部砂丘で平成23～24年に収量した10系統について、早摘収穫時に乾物率が高く、収量性も高い早生系統を調査する。	(成果) 乾物率が9%を上回り、播種量も比較的重い10系統を1次選抜系統とした。また、換算収量が2,000g/m ² を超え、欠株の発生が少なく、球の出荷換算割合が、中心だった4系統も1次選抜した。 (課題) 1次選抜した10系統および新たに入手した取系統をさらに選抜する。	
(1)現地産食系統の選抜と特性解明		園試センターほ場 1.2a	赤手のかん水方法の違いが、収量、乾物率(乾期)に及ぼす影響を収穫時期別に検討する。あわせて、灰色病の発生についても検討する。	(成果) 収穫前までは、かん水による硝酸態の差はなかった。収穫後期でかん水によって硝酸態は増加し、収量効果が見られた。 かん水の有無が硝酸態の乾物率に及ぼす影響はなかった。 灰色病は、収穫前までは発症による発生はなかったが、収穫後期ではやや発生が増加した。 (課題) 赤手かん水施与の時期と頻度が生育、収量、乾物率に及ぼす影響を収穫時期別に検討する。	
(2)赤かん水の効果的な方法の検討		高取市福部町ほ場 1.9a	香先(2月中旬～4月上旬)の被覆資材のベタけによる早出し栽培の可能性について検討する。	(成果) 被覆資材のベタけによる生育促進効果は判然としなかった。しかし、越冬期の被覆効果は地温を上昇させる可能性が認められた。 (課題) 被覆効果の時期を数年より1ヶ月早い、1月～3月下旬までとして、継続調査する。	
(3)栽培環境条件の検討					
3 砂丘型での有根・特種栽培技術の確立 (1)慣行栽培と比較した根肥株系等の検証					
ア 有機質肥料の検討		園試西園ほ場 1.0a	3ヶ月前の生育に合わせて有機質肥料を重点施肥することにより増収が可能か検討する。	(成果) 早摘収穫時期の違いが収量に及ぼす影響は判然としなかった。有機質肥料を用いたときの収量は慣行栽培と比較すると7割程度であった。 (課題) 終了	
イ 密植栽培の検討		園試西園ほ場 0.6a	有機質肥料栽培における栽培密度(株間の違い)について検討する。	(成果) 株間の違いが収量に及ぼす影響は判然としなかった。 (課題) 終了	

(平成26年12月31日現在)

事業名	(甲)人・米兼環境にやさしい白ネギ生産技術の確立		担当室別	弓浜砂丘地分場	
実施計画期間	23年度 ～ 26年度		(予算額)	892,000円	
			支出済額	535,200円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
土壌養分と白ネギ養分吸収の関係解明	弓浜砂丘地分場	ほ場 36a	・土壌診断に基づいた施肥が重要視されており、弓浜砂丘地域の白ネギ栽培圃場における土壌養分実態を調査し、施肥設計技術を確立する。併せて盛夏期散水条件下における養分吸収特性を調査する。	(成果) ・弓浜砂丘畑現地の土壌養分分析の結果、約7割の圃場においてリン酸が過剰に蓄積されていることが確認された。 ・弓浜砂丘畑における秋冬ネギの窒素吸収量は、概ね10～15kg/10aの範囲であり、収量増加が見込まれる総窒素吸収量は、30kg/10aが閾値であると推察された。 ・夏期散水によって欠株抑制および増収効果が認められた。	
堆肥利用による硝酸、加里の削減と有機物の連年施用効果		ほ場 36a	・白ネギ栽培における堆肥等の有機物を利用した肥培管理技術を確立する。	(成果) ・堆肥連年施用圃場においては、リン酸および加里の施肥を慣行の50%以上削減しても生育および収量に影響は認められなかった。 ・堆肥、海藻の連年施用圃場において海藻施用区での収量がやや優れる傾向が見られた。	
				(課題) ・土壌中のリン酸、加里を活用した肥培管理法の確立 ・白ネギの養分吸収特性の解明	(課題) ・堆肥等の連年施用による施肥削減効果および連年施用効果の経年変化の確認。

(平成26年12月31日現在)

事業名		(単)地球温暖化に対応した白ネギ安定生産技術の確立		担当室別	弓浜砂丘地分場
実施計画期間		20年度 ～ 26年度		(予算額)	(1,091,000円)
試験研究 調査の目的		試験研究調査 を行う場所		支出済額	654,600円
試験研究調査の目的		試験研究調査の 対象・数量・範囲		試験研究調査の成果・課題	
夏越し栽培技術の 確立	弓浜砂丘地分 場	ほ場 16a	夏期の高湿・乾燥による腐敗・ 枯死を抑制する栽培技術の確 立に向け、盛夏期における散水 の影響・効果を検討する。また、 耐暑性に優れた品種の検索を 行う。	(成果) ・夏期の散水の1回あたりの散水量を10mm とし、3日に1回程度の散水を行っても、毎回 3.5mmと同等以上の収量が得られる可能性 が示唆された。 ・弓浜砂丘地域の排水良好圃場における有 望品種「夏の宝山」を選定した。	(課題) ・夏期の発芽不良対策および軟腐病等の病 害虫対策。
周年出荷体系の強 化		ほ場 36a	高品質な白ネギの周年安定供 給に向け、6月どり作型における 省力化栽培および作型別適品 種の選定等を検討する。	(成果) ・一本ネギの完全周年化に向け、5月どり有 望品種を選定し、栽培法を検討した。また、 年内の生育中期まで多肥、生育後期を減 肥することで抽苔抑制につながる可能性が 考えられた。 ・6月どり無被覆栽培において育苗トレイの 違いおよび品種・定植日が抽苔および収量 に及ぼす影響について検討し、栽培法を確 立した。	(課題) ・年次変動の確認および他作型の適品種の 選定。 ・5月どり春ネギの作期拡大、6月どり夏ネギ の前進化および省力化。

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)「輝太郎」から始まる鳥取カキシリーズの安定生産技術の確立		担当室別	河原試験地
実施計画期間	26年度 ~ 30年度		(予算額) 支出済額	(1,280,000円) 768,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
輝太郎の栽培技術の確立	河原試験地	ほ場 80a および 現地試験	<ul style="list-style-type: none"> 1空洞果軽減のための技術開発 ・発生実態調査 (着果部位と発生時期) ・植調剤の効果確認 ・簡易な液体受粉の検討 2後期生理落果の対策 ・発生実態調査 ・着果方法の検討 ・植調剤の効果確認 3早期成圃化技術の開発 ・輝太郎に適した台木の選定 ・整枝方法の検討 4輝太郎に適した施肥体系の検討 5出荷時期の前進化技術の開発 ・植調剤の検討 	<p>(成果)</p> <p>1空洞果は8月上旬から発生が認められた。</p> <p>2台木によって苗木の伸長量が大きく異なった。</p> <p>3植物生育調節剤で熟期の促進が認められるものがあった。</p> <p>(課題)</p> <p>1苗木を定植し、台木によって生育や果実品質が異なるかどうか確認する。</p> <p>2植調剤の散布時期を変えて効果の確認を行う。</p>
西条の生産安定と系統選抜	河原試験地		<ul style="list-style-type: none"> 1樹上軟化落果の軽減対策 ・台木試験 (わい性台) 2加工に適した溝の少ない系統の選抜 	<p>(成果)</p> <p>1台木によって苗木の伸長量が大きく異なった。</p> <p>2箱処理タイプの1-MCP処理を行うことで、日持ち性が5日間程度改善された。</p> <p>(課題)</p> <p>1苗木を定植し、台木によって生育や果実品質が異なるかどうか確認する。</p>
富有の省力施肥体系の確立	河原試験地		<ul style="list-style-type: none"> 1富有に適した省力施肥体系の検討 ・元肥を施用しない施肥体系の確立 	<p>(成果)</p> <p>1省力施肥体系は、慣行施肥体系と同等の果実品質であった。</p> <p>(課題)</p> <p>1長期間での果実品質を確認する。</p>
花御所の生産安定と高品質化技術の確立	河原試験地及び現地ほ場		<ul style="list-style-type: none"> 1雄花の少ない優良系統の選抜 ・現地での生育状況の調査 2ヘタスキ・汚損果軽減のための技術開発 	<p>(成果)</p> <p>1雄花が少ない系統は、2系統有望である。</p> <p>(課題)</p> <p>1年次変化を確認する。</p>

(平成26年12月31日現在)

事業名	(特)作付拡大及び作期安定による訪かる中山間地農業技術の確立		担当室別	日南試験地
実施計画期間	26年度 ～ 30年度		(予算額)	(2,510,000円)
試験研究調査の目的			支出済額	1,506,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
夏秋トマトの9～10月高品質安定生産技術の確立	日南試験地	ハウス 72a	<ul style="list-style-type: none"> ・中高位段の着果安定化及び裂果軽減策を検討し、9月～10月の収量確保、高品質化技術を確立する。 ・日射に比例して自動かん水が可能な装置の雨よけトマト栽培での実用性を検討する。 ・土壌病害対策技術を確立する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桃太郎シリーズ品種では収量、品質に大差はなかったものの、食味評価において「桃太郎サニー」がやや優れた。 ・「りんか409」は高位段での着果に優れ、裂果発生が少なかったことから桃太郎シリーズ品種より秀品率が高く多収となり最も優れた。 ・合木品種では「TTM-081」は中高位段の草勢低下が少なく褐色根腐病の発生もなく有望と認められた。 ・日射制御型自動かん水装置はかん水作業の大幅な省力化を図りながら慣行と同等の収量、品質が得られた。 ・送風処理による裂果軽減効果は判然としなかった。 ・光質制御資材による高接木苗の徒長抑制効果は認められなかった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「りんか409」の接木特性解明 ・裂果対策技術の確立 ・9月～10月の収量確保対策技術の確立
夏本年前進作型の安定化と機械化対応育苗技術の確立		ほ場 13a	<ul style="list-style-type: none"> ・機械移植に対応した200穴セルトレイによる直置き育苗技術を確立する。 ・中山間地域の気象条件を活用した盆前出荷作型を中心とした体制強化を図る。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月どり作型では定植後1か月間の被覆栽培が有効で「夏福パワー」が有望であった。 ・品種比較試験の結果、盆前どり作型で「夏福パワー」、夏どり作型で「光の剣」、秋冬どり作型で「夏の宝山」がそれぞれ有望であった。 ・機械移植栽培では種後の耕出し処理と直置き育苗法の組み合わせで育苗になったが、ほ場の土壌水分が多い場合には苗転びが発生し問題となった。 ・育苗期の葉枯れ症状の原因は明らかとならなかった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械移植栽培に適した直置き育苗法の改良 ・萎凋病を始めとする難防除病害対策技術の確立
ブロッコリー作期拡大試験		ほ場 14a	<ul style="list-style-type: none"> ・初夏どりにおけるボトニング回避技術を確立する。 ・これまで栽培不可能とされていた7～9月どり作型について中山間地域での栽培限界を明らかにする。 ・以上により平坦地とのリレー出荷体系の強化と栽培面積拡大を図る。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極早生品種の選換え、育苗用土への肥料混和、本ほにおける基肥の施肥改善、定植後の保温処理のそれぞれで早期収穫の可能性が示唆された。 ・7月どり作型において有望と思われる品種を選定した。 ・8月以降は降雨による花蕾の病害が多発し再検討を要した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期収穫技術の組み立て ・高温期収穫作型の安定化
新規品目の検索と栽培法の確立	ハウス 3a ほ場 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・積雪により農業収入が6～11月に限定される中山間地域において、高収益な新規基幹品目や、春期、冬期の補充品目を検索し栽培技術を確立する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初夏どりレタスは定植後の不織布だがけにより5月下旬収穫から可能であったが、市場単価は安かった。 ・夏秋期のアブラナ科結球野菜や根菜類は病害虫による被害が多く問題となった。 ・軟弱野菜ではホウレンソウはコマツナよりやや低収であるが市場単価は高かった。 ・ストック及びトルコキキョウの9月どりは市場単価が高く有望であった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有望品目の選定と栽培技術の確立 	

(平成26年12月31日現在)

事業名	(単)鳥取県の気候条件に適した霜害対策技術の確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	26年度		(予算額)	(5,367,000円)
			支出済額	1,974,780円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
従来の防霜技術の改良による取り組みやすい防霜技術の開発	本場	ほ場 50a	従来の防霜技術を、現在の栽培状況に合わせた資材や従来より安価で簡便な資材に改良し、マニュアル化する。	<p>(成果)</p> <p>従来の半分の設置数で効果が得られる燃焼法の技術を確立した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網掛け施設内における燃焼法は温度上昇効果を高めるとともに燃焼時間を延長する効果があった ・つり下げ型のスプリンクラーを塩ビ管を用いて棚上50cmの位置に取り付けることにより、樹冠全体へまんべんなく散水できるようになることを明らかにした <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃焼時間のさらなる延長と灯油使用量の削減 <p>防霜ファンの設置が遅れ、3月に試験を実施する</p>

○意見、要望等

(1)業務に関する意見・要望等

特になし

(2)監査委員事務局に対する要望等

特になし